

横浜市 新図書館整備 基本構想

基本構想の要点 1

基本構想の位置づけ・整備までのプロセス

本構想は、「横浜市図書館ビジョン」、「今後の市立図書館再整備の方向性」を踏まえ、新図書館のコンセプトや備える機能、立地、規模といった新図書館整備に関する基本的な考え方や方向性を示すもの。

■ 長期スケジュール



■ 策定の過程

「図書館ビジョン」の実現に向け、有識者や市民の意見を聴きながら構想を検討。

- ・7～11月 有識者ヒアリング（6名）
- ・9～10月 小中高生インタビュー（各1校、計約50名）
- ・10月 市民ワークショップ（約70名）
- ・12月～1月 市民意見募集(681通)
- ・2月 新図書館整備に関する座談会(約90名)
- ・2月～3月 地元・団体等ヒアリング(4回実施)

第1章 | 新図書館整備の背景

横浜市図書館ビジョン

令和6年3月策定。中長期的な社会の変化を展望し、これからの図書館の「目指す姿」や「取組の方向性」を示す。

今後の市立図書館再整備の方向性

令和6年12月公表。図書館ビジョンを実現するため、当面10年程度の間に市立図書館全体の再整備等を進めるにあたっての基本的な考え方を示す。

「今後の市立図書館再整備の方向性」による、「新たな図書館像」実現に向けた施策

図書館ビジョンで示した「新たな図書館像」



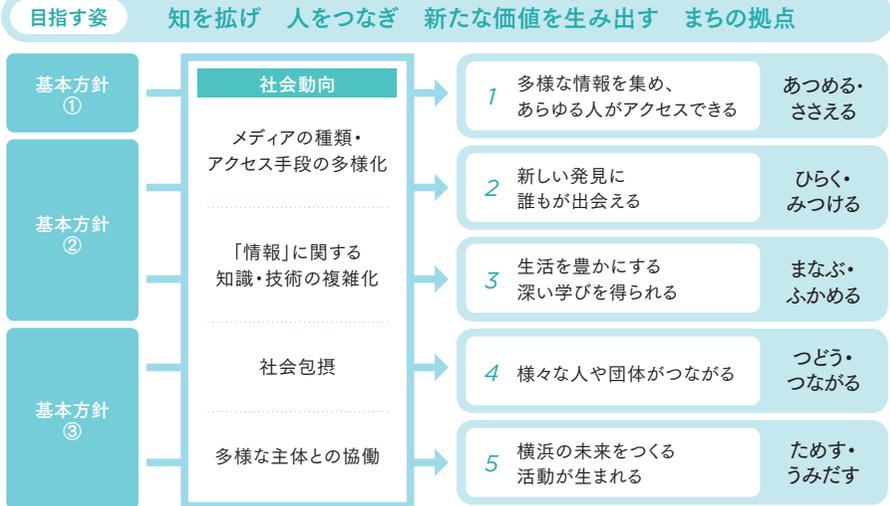
「子どもから大人まで、みんなが主役になれる場」

- 地域図書館の老朽化対策
 - ・まちづくりと連携した再整備
 - ・老朽状況に応じたリノベーション
- 図書取次拠点の増設
- デジタル技術の積極導入
- 新図書館の整備

新図書館は、創造・発信の機会の提供や、利用者同士の交流を促すため、図書も含めた多様なメディアに対応するとともに、市立図書館ネットワークを支える物流センター機能を有する、「教育都市 横浜」の知の拠点となることを目指す。

第2章 | 新図書館整備の方向性

図書館ビジョンの新たな図書館像を念頭に、①図書の閲覧・貸出し等基本的な機能の提供、②メディアの多様化、創造・発信など、知的活動の活発化への対応、③様々な人の交流や連携などの機会の提供、の3つの方針のもと整備を行う。



第3章 | 新図書館の機能

「目指す姿」を実現するための機能と具体的な取組を整理。

- あつめる・ささえる** 情報の充実とアクセス性向上 ... 情報の収集・提供 / 蔵書の拡充 / アクセス性の向上 / 物流拠点の整備
- ひらく・みつける** 知的好奇心を育む ... 思い思いに過ごせる場づくり / 開かれた場づくり / 新たな発見・気づきの機会の提供
- まなぶ・ふかめる** 体験を通じた学び ... 多様なメディアの活用 / リアルな体験の提供 / 知の探究の支援
- つどう・つながる** 知的交流の創出 ... 多様な主体とのネットワークの構築 / 人と人の接点の創出 / 対話・協働の機会の創出
- ためす・うみだす** 新たな価値の創出 ... アイデアの具現化支援 / 地域・社会との接点の創出 / 発信・実装の機会の提供

基本構想の要点 2

第4章 | 空間計画の方針

座席数や備える蔵書の規模など各スペースに必要な面積から新図書館の概ねの規模を下表のとおり整理。

施設整備の方針

- 読書環境の充実
蔵書不足の解消に向け、約100万冊を収蔵、閲覧席等の「座席」を約1,000席確保
- 体験、交流、創造、発信等新しい機能の整備
1,000人程度が滞在・活動できる空間を確保
- 市立図書館ネットワーク支援機能の確保
書庫、物流拠点等を整備



エリア	整備する空間・諸室(例)	想定規模
図書・閲覧等の基本的機能を提供するエリア	図書・閲覧関連スペース 例 開架図書(40万冊を想定)、閲覧席(約800席)等	6,000㎡程度
体験、交流、創造、発信等 新しい機能を提供するエリア	多様な滞在スペース 例 オープンなラウンジ、静かな部屋等(約200席)	5,000㎡程度
	交流・共創スペース 例 多目的ホール、ギャラリー等	
	創造・体験・活動スペース 例 ものづくりができる空間、グループ活動ができる空間等	
	子ども・ティーンズ関連スペース 例 遊び空間、自由な活動ができる空間等	
新図書館利用者へのサービスを支えるエリア	共用・事務管理スペース 例 廊下・階段・トイレ・駐車場・駐輪場等	5,000㎡程度
市立図書館ネットワークを支えるエリア	市立図書館ネットワーク支援関連スペース 例 物流拠点、開架書架(60万冊程度を想定)等	2,000㎡程度
事務管理関連エリア	共用・事務管理スペース 例 事務室、建物管理関連諸室等	2,000㎡程度
合計		20,000㎡程度

具体的な配置は今後検討。
これらのスペースは明確に区分せず、ゆるやかに施設の中に散りばめることも検討。

第5章 | 立地

利用者のアクセス性、物流拠点としての適性、全市のなまちづくり・市域バランスの3つの視点から、新横浜駅北口の市有地に新図書館を整備。当該地区のまちづくりと連携して推進。

所在	港北区新横浜二丁目1番5
面積	2,796.29㎡
周辺環境	新横浜駅から徒歩1分 (JR・市営地下鉄・東急・相鉄)、 北口駅前広場に隣接
所有者	横浜市



エリア選定プロセス

- ① 利用者のアクセス性
市内主要駅について、市内各駅からの所要時間を算出し比較。
▶ 横浜駅、桜木町駅、東神奈川駅、新横浜駅、関内駅の5つが優位
- ② 物流拠点としての適性
①の5駅について、地域図書館等既存拠点からの道路アクセス等を比較。
▶ 新横浜駅、横浜駅が比較優位
- ③ 全市のなまちづくり・市域バランス
①の5駅について駅乗降客数、エリア内における類似の市民利用施設(図書館・美術館・博物館)の立地状況を比較。
▶ 横浜都心には中央図書館や、美術館・博物館が多く立地するが、新横浜都心にはない

これらを踏まえ、新図書館は新横浜駅周辺での立地が適当

用地選定プロセス

当該エリア内において、必要な規模の確保、接道要件、駅からのアクセス性、まちづくりの視点から、整備予定地を「新横浜駅北口市有地」と決定。

第6章 | 整備手法・管理運営の方針

- 今後、①魅力的な空間デザイン、②空間・サービス・デジタルの融合、③効率的な運営・維持管理、④適正なコストとスケジュール などの重要な視点から多角的に比較検討を行う。
- 想定来館者数:300万人
- 管理・運営にあたっては、将来にわたり魅力的な施設であり続けられるよう、公民連携の視点も持ちながら適した手法を検討していく。

横浜市

新図書館整備

基本構想

目次

はじめに	P.4
第1章. 新図書館整備の背景	P.8
第2章. 新図書館整備の方向性	P.17
第3章. 新図書館の機能	P.21
第4章. 空間計画の方針	P.31
第5章. 立地	P.35
第6章. 整備手法・管理運営の方針	P.42
資料編	P.45

横浜市立図書館の使命

横浜市の図書館は、大正10年(1921)年、横浜公園内の仮閲覧所で開業したのが始まりです。それ以来、図書館が有する「すべての人が知識や情報を得ることができる権利を保障する」という使命を果たすため、貸出しサービスの拡大、巡回文庫の実施、移動図書館の導入、インターネットでのサービス提供などに見られるように、その時代のニーズに合わせて、様々な取組を進めてきました。

知識や情報に触れることは、個人個人の生活を豊かにする基礎であり、その提供機会を確保することは、これからの社会においても、図書館の重要な使命です。横浜市立図書館が、これからもあらゆる知を見出し、保存し、訪れる人にとって、知のネットワークに触れられる開かれた場所として機能していくため、現代及びこれからの社会変化を見据え、新たなサービスを提供する新図書館を整備します。

新図書館整備基本構想 策定までの経緯

横浜市では、令和6年に、「横浜市図書館ビジョン」(以下、「図書館ビジョン」という。)を策定し、市立図書館全体として目指すべき姿や取組の方向性を定めました。また、同年に、「今後の市立図書館再整備の方向性」(以下、「再整備の方向性」という。)を策定し、図書館ビジョンの実現に向けた、市立図書館再整備にあたっての基本的な考え方をとりまとめました。「再整備の方向性」では、従来の市立図書館全体の枠組みを再構築し、デジタル技術も活かしながら、提供するサービスの充実とアクセス性向上を目指し、取組を進めていくことを示しました。その取組の一つとして、図書を含めた多様なメディアへの対応や、知の創造・発信を担う新たな機能、中央図書館が担う物流機能を強化する新たな物流拠点機能を備えた新図書館を整備することを決めました。

新図書館は、約30年ぶりに整備される本市19館目の図書館であり、創造・発信の機会の提供や、利用者同士の交流を促すため、図書も含めた多様なメディアに対応するとともに、市立図書館ネットワークを支える物流センター機能を有する、「教育都市 横浜」の知の拠点となることを目指しています。

? 基本構想について

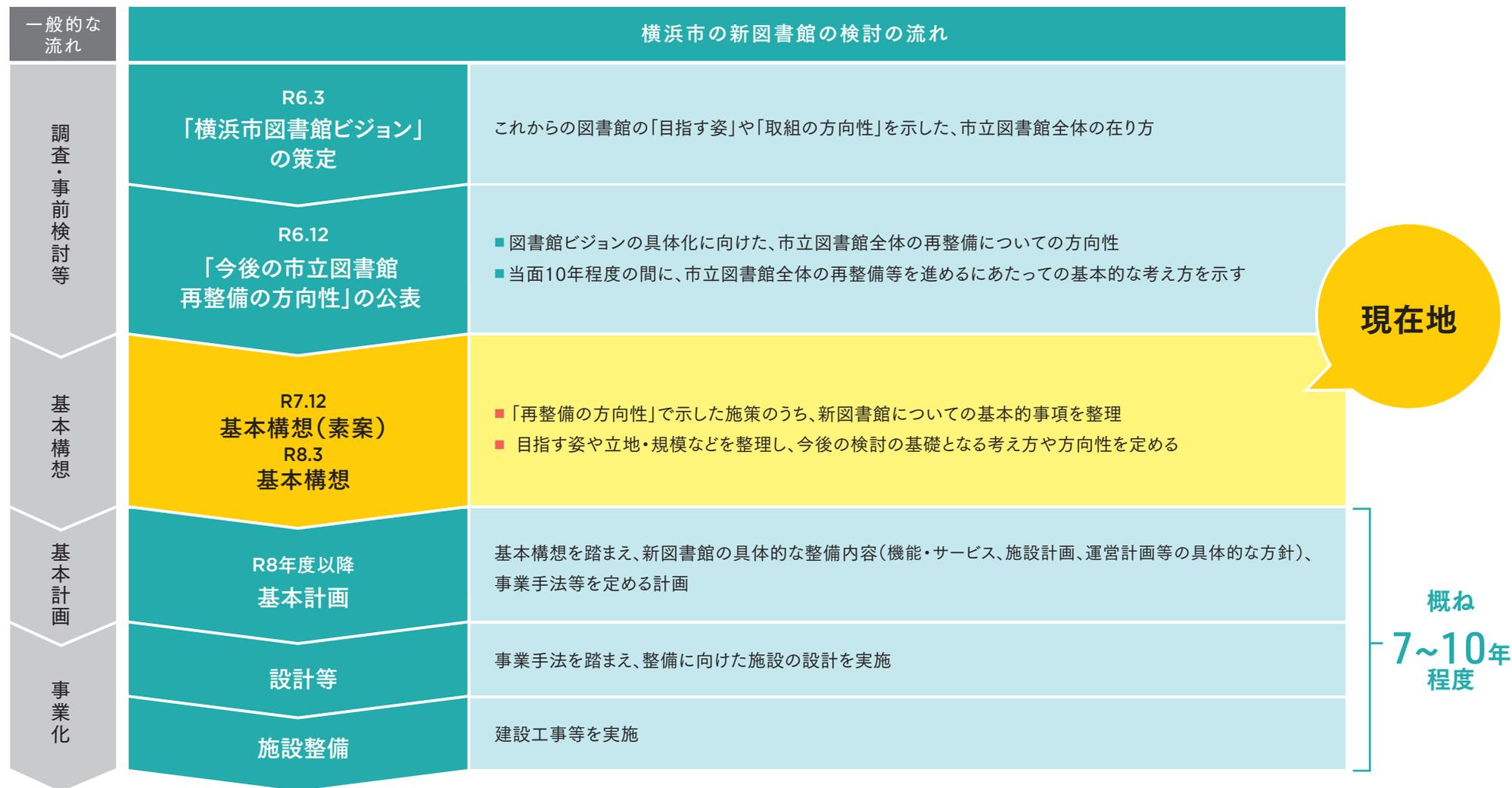
この基本構想は、次世代の横浜の都市づくりを見据え、新図書館のコンセプトや備える機能、立地、規模といった基本的事項を取りまとめたものであり、今後の新図書館整備の基礎となる考え方や方向性を示すものです。

人口減少・少子高齢化やデジタル化の進展等社会経済の動向、財政ビジョン等本市全体の方針と整合を取りながら、新図書館整備を進めていきます。

1 新図書館整備のプロセス

新たな施設の整備にあたっては、一般的に、最初に施設のコンセプトや目的、規模等の基本的な考え方を定め、その後、段階を踏みながら計画を具体化するプロセスをたどります。

本構想は、このプロセスにおける、「基本構想」の段階にあたり、今後の施設計画の具体化に向け、基礎となる考え方や方向性を定めています。



2 基本構想 策定の過程①

本構想の策定過程では、市民の皆様や有識者の皆様からの意見を聞く機会を設けました。
いただいたご意見は、この基本構想に反映し、実現に向けて具体化していきます。

ワークショップ

テーマ 新しい図書館を考えよう!

対象者 市内在住・在勤・
在学の方(68名参加)

主な結果

- 第1回(10月26日) 横浜市役所 31名
- 第2回(10月29日) 横浜市役所 37名

新図書館にほしい「新しい機能」について意見を収集しました。
例えば、「音楽や演劇、展示にふれる空間」「図書館資料と
連携した体験型教室の開催」などの意見が得られました。



小中高生インタビュー

テーマ 行ってみたい図書館は
どんなところ?

対象者 市内小中高生46名

主な結果

対象

- 市立南高校(9月22日) 1~3年生 10名
- 市立鶴見中学校(10月17日) 2~3年生 7名
- 市立箕輪小学校(9月26日) 5~6年生 29名

現在の図書館のイメージや、図書館のいいところ、行ってみた
くなる図書館について意見を伺いました。

家から遠くても、駅前の便利な場所にほしいなど、環境面での
意見をいただきました。

また、ソファや寝転がれる場所、テラス席で本を読みたい、VR
で本の世界を体験してみたいといった、図書館での過ごし方
について、様々な意見をいただきました。

有識者ヒアリング

テーマ 新図書館への意見を伺う

対象者

小泉 公乃 氏(筑波大学)
大向 一輝 氏(東京大学)
石井 大一郎 氏(宇都宮大学)
安岡 美佳 氏(ロスキレ大学)
菅沼 聖 氏(山口情報芸術センター)
田村 和彦 氏(株式会社丹青社)

主な結果

新図書館の機能や運営方法などについて、6名の有識者より
意見を伺いました。

各有識者の専門分野(図書館情報学、デジタル・情報テクノロ
ジー、コミュニティ政策、体験プログラム設計、文化施設運営)
を中心に、新図書館への意見を伺いました。

例えば、「公共図書館の使命は「知る権利の保証」であるため、
その軸は意識できるとよい。」「図書館で知的な体験を提供す
る際は、図書館の持つ情報を活かした体験とするなど、図書館
で実施する意義があるとよい。」などの意見が得られました。

※ 巻末により詳しい内容を掲載しています。

2 基本構想 策定の過程②

市民意見募集

実施概要

■ 実施期間

令和7年12月17日(水)～令和8年1月19日(月)

■ 意見提出方法

- ・横浜市電子申請 ・届出システム
- ・電子メール ・郵送 ・FAX

意見主旨	件数	割合
基本構想素案への賛成意見	35	3.5%
新図書館整備を推進したうえで、新図書館の具体的な機能への提案・期待等	611	60.5%
図書館施策全般や地域図書館等他の取組への意見	293	29.0%
新図書館整備より、他の図書館施策を優先すべきという意見	27	2.7%
基本構想素案の内容(立地、コンセプト、機能等)の見直しに関する意見	35	3.5%
財政的視点等からの見直しに関する意見	9	0.9%
合計①	1,010	100%
その他、図書館施策以外への意見	80	
合計②	1,090	

新図書館整備に関する座談会

対象者

市内在住・在勤・在学の方(92名参加)

主な結果

- 第1回(令和8年2月21日) 横浜市役所 47名
- 第2回(令和8年2月24日) 横浜市役所 45名

- ・横浜市、新横浜ならではの機能
- ・子ども大人も楽しめる機能
- ・市民が運営に参加する仕組み
- ・既存図書館充実、学校図書館との連携
- ・デジタル化によるニーズ変化への対応 等

地元・団体等ヒアリング

主な結果

■ 実施日

令和8年1月～2月

■ 対象

自治会や団体等4回実施

■ 主な意見

- ・まちづくりとの連携
- ・図書館以外の機能導入(例:防災)等

※ 巻末により詳しい内容を掲載しています。

第1章

新図書館整備の背景

横浜市の図書館施策

① 横浜国立図書館のこれまでの取組

横浜国立図書館の歴史は1921年に横浜公園内の仮閲覧所で開業したのが始まりです。当時は、図書の閲覧のみが基本的なサービスでした。

- 1924年には仮本館が設置され、新たに館外貸出しサービスが開始されました。これにより、図書館以外の場所でも図書に触れ、学ぶことができるようになりました。
- 1934年には、巡回文庫が開設され、図書館を利用しにくい人にも図書がいきわたるようになるためのサービスの起源となりました。
- 第二次世界大戦期間中は行政機能の疎開や移転等が行われ、十分なサービスを提供できない期間もありましたが、戦後1947年には野毛の本館に図書館機能が復帰しました。
- 1950年には、館外個人貸出しや無料での閲覧が開始しました。
- 1970年代には、磯子図書館の開館をはじめ、順次、地域図書館を開館しました。
- 1990年代には図書館情報システムを導入し、利用者の利便性の向上につながりました。
- 2000年代に入ると、インターネット上で利用できるサービスが拡充されたほか、市内のサービス拠点のネットワーク化が進められ、市民の利便性向上に向けた取組が充実していきました。
- 2010年には、司書補助業務委託の導入や山内図書館における指定管理者による運営の開始など、民間事業者と連携した図書館運営を始めました。

年	できごと
1921 (大正10) 年	6月 横浜公園内の仮閲覧所で11日から図書の閲覧を開始(市立図書館の開業)
1924 (大正13) 年	3月 横浜公園内に仮本館を竣工、館内閲覧(4月)、館外貸出し(9月)を開始
1927 (昭和2) 年	7月 現在の中央図書館の場所(旧老松小学校跡)に横浜市図書館竣工
1934 (昭和9) 年	11月 巡回文庫開設
1947 (昭和22) 年	8月 第二次世界大戦の影響により移転した先から野毛の本館に復帰 9月 開架式で閲覧業務を再開
1950 (昭和25) 年	4月 館外個人貸出し開始、図書館法公布で閲覧無料となる
1954 (昭和29) 年	10月 団体貸出し事業開始
1970 (昭和45) 年	8月 移動図書館「はまかぜ号」による巡回貸出し開始
1974 (昭和49) 年	10月 磯子図書館開館 ※以降、地域図書館が順次開館
1994 (平成6) 年	1月 各図書館で「横浜市図書館情報システム」による窓口業務開始 4月 中央図書館全面開館(2月、部分開館) * 図書館情報システム全面稼働

年	できごと
1996 (平成8) 年	5月 中央図書館でCD-ROM検索サービス開始
1999 (平成11) 年	5月 「庁内情報拠点化事業」開始
2004 (平成16) 年	5月 Eメールレファレンスサービス開始
2005 (平成17) 年	10月 インターネットでの予約・貸出し延長サービス開始 12月 「地区センター等ネットワーク試行調査事業」開始 二俣川、東戸塚両行政サービスコーナーでの貸出し・返却サービス、東急田園都市線3駅に返却ポストを設置 2007年青葉区内地区センター等6施設に拡充
2006 (平成18) 年	2月 中央図書館でインターネット閲覧サービス開始 (2007年地域図書館5館、2009年全館に拡大)
2010 (平成22) 年	4月 山内図書館で指定管理者による運営を開始 8月 第1回サイエンスカフェ(現在のライブラリースクール)開催
2017 (平成29) 年	鎌倉市、川崎市、藤沢市、大和市と広域相互利用サービスを開始 (2018年横須賀市、2020年町田市、2021年逗子市とサービス開始)

出所：横浜市ウェブサイト「これまでの図書館のあゆみ(市立図書館年表)」より抜粋、一部追記

横浜市の図書館施策

2 図書館ビジョン

令和6年3月に、10～20年後を見据え、中長期的な社会の変化を展望し、これからの図書館の「目指す姿」や「取組の方向性」を示すものとして「横浜市図書館ビジョン」を策定しました。図書館ビジョンでは、図書館をめぐる時代や環境の変化を捉え、「変化し続ける

新たな時代に対応し、市民の皆様、まちとともに新しい時代を創ることができる図書館であり続ける」ことを基本的な課題認識として示しました。

横浜市図書館ビジョン 【はじめに】より抜粋

そしていま、技術発展により、情報伝達のスピードが加速するとともに、伝達の媒体も、紙だけではなく電子メディアへ、そして文字・写真・動画など多様化してきています。また、情報は得るだけでなく、誰もが、創り、編集し、発信することもできるようになってきました。さらに、本との向き合い方も多様になってきています。読書だけでなく、得た知識を発信することで知識を定着させたり、知見を深めたり、そこから新たな交流やにぎわいが生まれたり。本から始まるつながりづくりを重視した向き合い方も出てきています。

図書館はこれらの人々が、知識・情報を得て活用する力、地域や世界の課題を解決していく力、明日を生きる力を育むことを支える施設です。

横浜市の図書館施策

② 図書館ビジョン

図書館をめぐる環境の変化としては、例えば、情報が伝わるスピードの加速、メディアの多様化、誰もが情報をつくり、編集し、発信できる時代になったことなどが挙げられます。また、こうした変化に伴い、本との関わり方も多様化し、図書館においても、交流やにぎわい、つながりを重視する考え方が広がってきています。

こうした状況を踏まえ、図書館ビジョンでは、これからの時代に求められる、新たな図書館像として、「知る・学ぶ・深める」、「つどう・憩う」、「遊ぶ・体験する」、「まちとつながり・交流する」、「連携・協働する」場となることを目指すこととし、その実現のための5つの基本方針を定めています。

横浜市図書館ビジョン 新たな図書館像

新たな図書館像

これからの図書館は、読書を通じて「知る・学ぶ・深める」ことができるのはもちろん、未来を担う子どもたちや子育て世代をはじめとしたすべての市民一人ひとりにとって、居心地よく自由に過ごすことができる、多様な人々の「つどう・憩う」場になります。

図書館は、読書に加えて、触ったり、聞いたり様々な感覚で「遊ぶ・体験する」ことができ、様々な知や人、文化に出会い「まちとつながり・交流」できる、“わくわく”を見つけられる場になります。さらに、子育てや暮らしをより豊かなものにするために、市民の皆様や地域の団体、企業の方たちがアイデアを出し合い、「連携・協働」して解決方法や、新しい“わくわく”を創り出せる、子どもから大人まで、みんなが主役になれる場となっていきます。

市民の皆様一人ひとりが自分らしく活躍できる社会、そして社会とともに変わり続けられる図書館を創っていきます。

5つの基本方針

1 | 未来を担う子どもたちのための図書館

多様な知や人・文化との出会いや体験を通して、子どもたちの「知りたい」「創りたい」を引き出すわくわくする場となり、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る」子どもたちを育むとともに、子育て支援施設や学校など地域とのつながりのなかで、子育てを支援します

2 | あらゆる市民のための図書館

読む・知る・体験することのバリアを取り除き、あらゆる世代・多様なニーズを包摂(インクルージョン)する、読書と体験ができる居心地のよい居場所となることで、人々がつどい、様々なつながりと新たな発想を生み出す、交流・創造・発信の拠点となります

3 | まちとコミュニティのための図書館

市民、団体、企業等が持つ情報・知識を集め、協働・共創により地域の魅力を引き出し、人々の暮らしの豊かさと地域の課題解決を支援する、まちづくりのプラットフォームになります

4 | 利用しやすい図書館サービス

デジタル技術を活用した情報とサービスへのアクセスの充実、使いやすく居心地のよい環境づくりに向けた施設の機能拡充とサービス拠点の充実を進め、リアルでもバーチャル空間でも、情報とサービスにアクセスしやすい環境をつくります

5 | 柔軟に変化し魅力がいつまでも持続する図書館

多種多様なパートナーとの協働・共創や司書の人材育成、効率的・効果的なサービス提供とツールの充実により変化に柔軟に対応し、一人ひとりの心豊かな暮らしと主体的に活動する地域づくりに貢献する、魅力あふれる図書館であり続けます

市立図書館の現状と課題

図書館ビジョンを実現するため、令和6年度に、図書館の現況調査等を実施し、現在の横浜市立図書館が抱える課題を整理しました。

市立図書館は、主に、①施設環境、②提供するサービス向上を担う新機能導入、③蔵書、

④図書サービスへのアクセス性、⑤物流拠点機能の整備についての課題を抱えているとともに、既存の市立図書館各館は、建物構造や敷地面積の制約等から、個々の館の大幅な規模拡大が難しく、これらの課題に対応することが困難な状況であることが分かりました。

市立図書館が抱える主な課題

1 施設環境

- 近年整備された図書館と比較して狭く、閲覧席が少ない
- 施設が古く、インクルーシブ対応やデジタル対応が途上

2 提供するサービス向上を担う新機能導入

- 床面積を最大限活用しており、図書館ビジョンが掲げる賑わい・体験等デジタルも活用した新機能導入は困難

3 蔵書

- 現在の蔵書保有量は、市民一人当たりで比較すると他の政令市より少ない
- 蔵書保管機能を担う中央図書館の蔵書収容量はひっ迫

4 図書サービスへのアクセス性

- 図書館及び図書取次拠点の設置密度が低く、図書サービスを身近に感じにくい
- 各図書館が提供する機能に合わせたアクセス性の確保

5 物流拠点機能の整備

- 各館の物流スペースの狭あい化に対する物流網の再整備

図書館を取り巻く社会動向

近年整備された図書館は、市民が集まる拠点として、従来の図書館機能に加え、多様な機能を複合的に導入している例が多く見られます。そこでは、利用者は、本を読むだけでなく、おしゃべりをしたり、イベントに参加したり、思い思いに過ごしており、これまで、主に知識を得る場であった図書館が、知ったこと、学んだことを実践し、人とつながり、社会と関わる場へと

変化してきている様子が見えてきます。また、図書館に関わる重要なトレンドとして、メディアの種類とアクセス手段の多様化、情報に関する知識や技術の複雑化、社会包摂(インクルーシブ)への意識の高まり、そして、様々な人や組織との協働などが挙げられます。これらを踏まえ、今後の図書館の在り方を検討することが求められています。

新たなニーズに応える図書館機能の登場

活動・交流を支える 図書館

- 広場、文化体験スペースなど様々な活動ができるスペースを備える。
- 外から見えるオープンな場所で活動を行うなど、まちとのつながりを意識し、人々の交流を促す。

子どものための 図書館

- 子ども向けのプログラムを充実させ、読み聞かせ以外にも制作活動の機会などを提供。
- 子どもの賑やかな声を許容する環境づくりを行っている。

体験できる 図書館

- 資料を手に入れるだけでなく、学んだことをワークショップ、Fablab^{*}、スタジオなどで実践・発信できる。
- 自ら体験することでスキルを身に付けることができる。

柔軟な活用が可能な 図書館

- 部屋を壁で仕切らず、ひとつながりの空間にしておき、目的に合わせて柔軟に使える構造。
- 活動を限定せず、様々な活動を共存させている。

図書館を取り巻く社会動向

メディアの種類・ アクセス手段の多様化

- 紙の書籍だけでなく、電子書籍、映像、音声、デジタルコンテンツなど多様なメディアが登場している。
- 情報へのアクセスが容易になり、手段も多様化している。

情報に関する知識・ 技術の複雑化

- 高度化・専門化する知識・技術への対応が求められており、専門資料の充実や学習支援、情報リテラシー教育が進んでいる。

社会包摂(インクルーシブ)への 意識の高まり

- 多様な背景や個性を持つ人々が共に利用できる場として、アクセシビリティや多文化共生、ジェンダー配慮などが重視されている。

多様な主体との協働

- 図書館を通じて地域の人々や団体・企業が連携し、協働によって社会課題の解決に取り組む動きが広がっている。

^{*}Fablab(ファブラボ):3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタル工作機械を備えた場所で、市民がものづくりを行うことができる環境を提供する工房を指す。

今後の市立図書館再整備の方向性

対応の方向性

現在の市立図書館の状況や課題、また、昨今の社会動向等を踏まえ、令和6年12月に、図書館ビジョンの具体化に向けた、市立図書館再整備にあたっての基本的な考え方である「今後の市立図書館再整備の方向性」を公表しました。「再整備の方向性」では、時代・ニーズの変化や老朽化・狭あい化等市立図書館が抱える課題に早期に対応し、市立図書館が提供する

サービスの充実とアクセス性向上を目指すことを掲げました。この中で、新図書館の整備を柱1「市立図書館の再整備・機能拡張」に位置づけ、図書を含めた多様なメディアへの対応と新たな機能の整備、物流拠点の整備を進めることとしました。

今後の市立図書館再整備の方向性

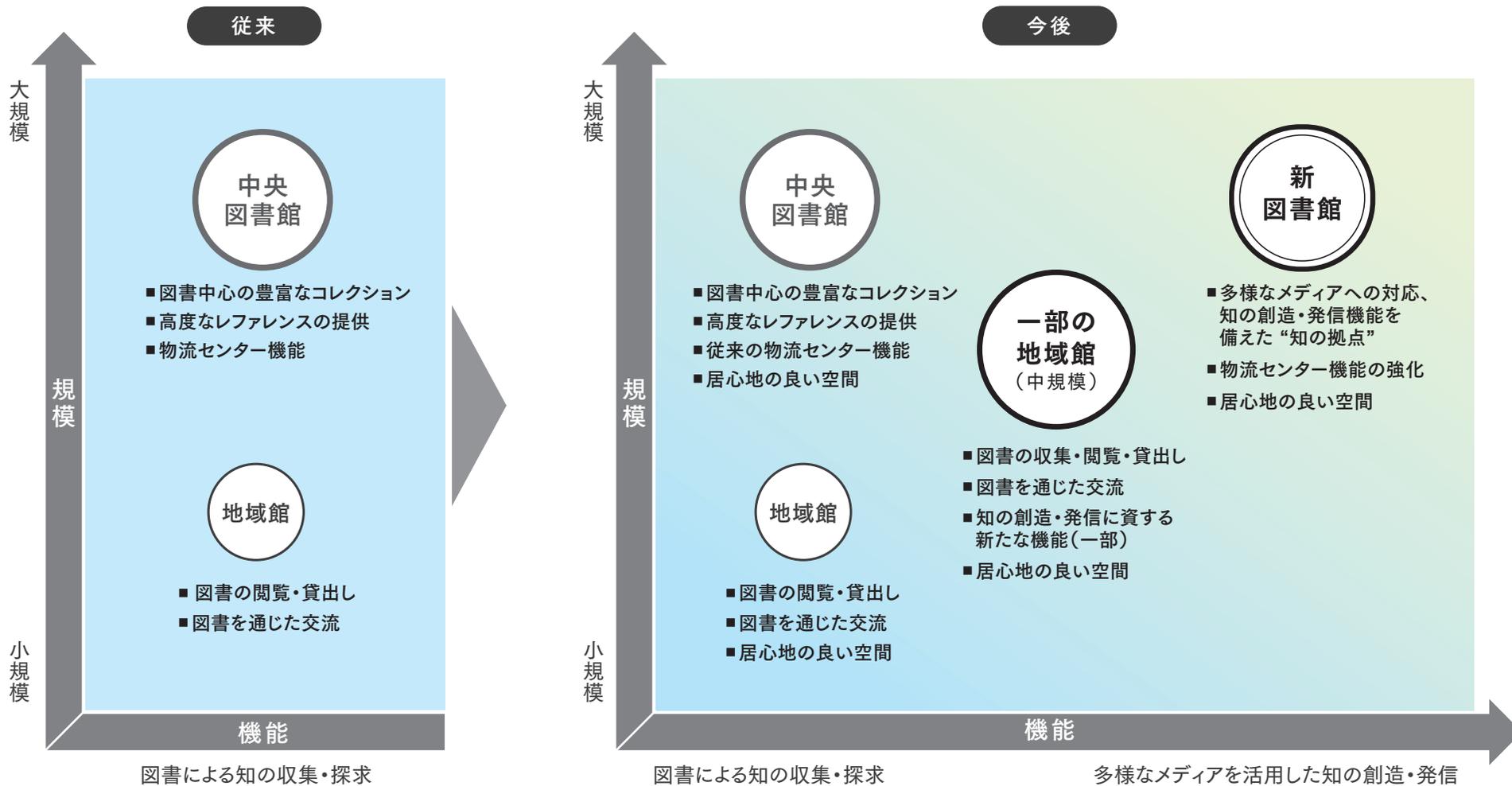
～当面10年程度の間、市立図書館全体の再整備等を進めるにあたっての基本的な考え方～

図書館ビジョンの実現に向け、従来の市立図書館全体の枠組みを再構築し、デジタル技術も活かしながら、提供するサービスの充実とアクセス性向上を目指す

柱1 市立図書館の再整備・機能拡張		柱2 図書サービスへのアクセス性向上		柱3 デジタル技術の積極導入
時間軸を考慮した地域館の再整備	一部の地域館の中規模化	新図書館の整備		取次拠点の整備 物流拠点整備
再整備は、建物の老朽状況や周辺エリアのまちづくりの進捗等を踏まえた実施が基本	市域全体の交通アクセス・バランス等を考慮し、一部の地域館の機能・規模を拡大 ※鶴見区豊岡町複合施設に入居する鶴見図書館の規模 現在1,500㎡→新5,000㎡	時代・ニーズの変化等に対応する、新しい図書館を整備 ■「教育都市 横浜」の知の拠点として、図書も含めた多様なメディアに対応 ■ 知の創造・発信を担う新たな機能と諸室を備える ■ 現在中央図書館が担う物流機能を強化する新たな物流拠点を備える		多様な体験の提供、 便利で使いやすい図書館
短期的な対応として、再整備とは別に、居心地の向上を目指したリノベーションを実施	知の創造・発信に資する新たな機能を一部備える	① 図書取次拠点の増設 多くの市民が図書サービスをより身近に感じられるよう、図書取次拠点設置の考え方の柔軟化を検討 ② 図書取次サービスを支える物流拠点の整備 図書取次拠点の増設に向けて、市内の各図書館・取次拠点に図書を集荷・配送するための大規模な物流拠点を、新たな図書館内に整備		① デジタル技術を活用した多様な体験の提供 ■ 図書館との「接点」を拡大 ■ 図書館の新たな価値の創造 ② より便利で使いやすい図書館の実現 管理運営の効率化と利用者サービスの向上につながる仕組みの導入

今後の市立図書館再整備の方向性

時代の変化やニーズの多様化、現在の市立図書館が抱える課題に対処するため、市立図書館の役割分担によりサービスを提供していくこととしました。



新図書館整備の方向性

新図書館整備の基本方針

図書館ビジョンでは、「新たな図書館像」を“子どもから大人まで、みんなが主役になれる場”と示しており、
そのために必要な5つのキーワードを掲げています。

5つのキーワード

知る・学ぶ・深める

つどう・憩う

遊ぶ・体験する

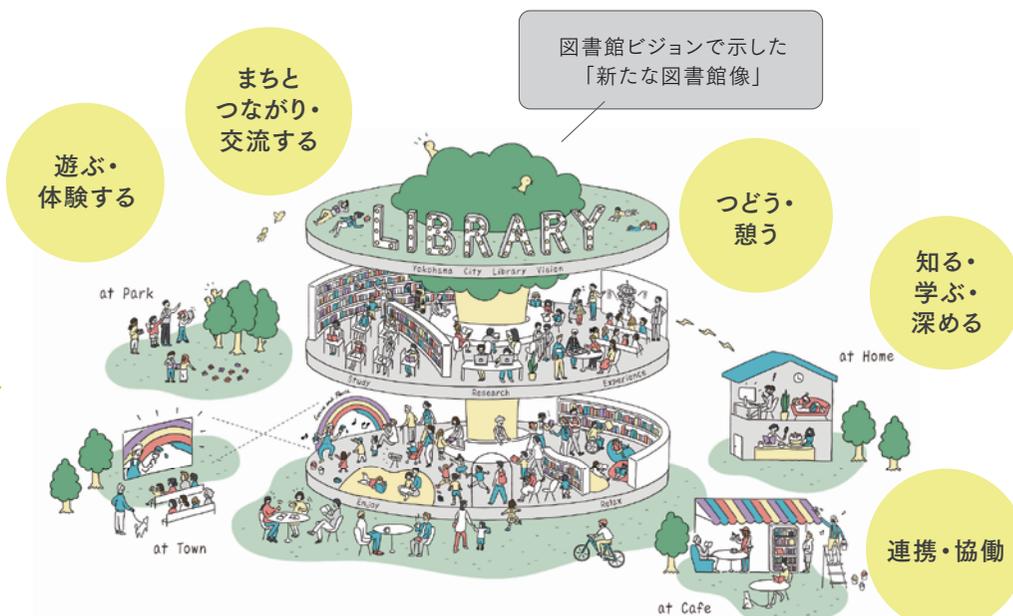
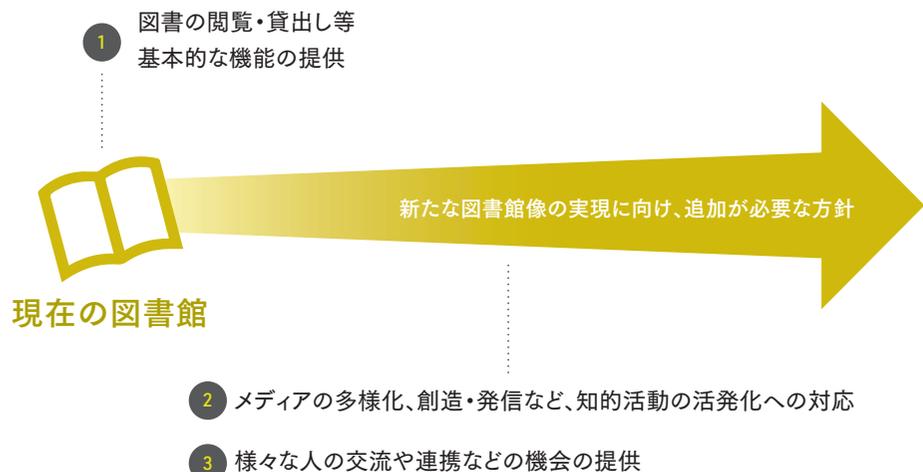
まちとつながり・交流

連携・協働

新図書館では、これを念頭に、現在の市立図書館が備える

- ① 図書の閲覧・貸出し等基本的な機能の提供に加え、
- ② メディアの多様化、創造・発信など、知的活動の活発化への対応、
- ③ 様々な人の交流や連携などの機会の提供

の3つの方針のもと、整備を行うことで、
図書館ビジョンに示す「新たな図書館像」を実現します。



「子どもから大人まで、みんなが主役になれる場」
そして、新たな価値を生み出す“まちの拠点”へ

整備に必要な視点～図書館を取り巻く社会動向

前頁で述べた基本方針①②③に関連する社会動向を整理し、新図書館の整備に取り入れます。

基本方針

- 1 図書の閲覧・貸出し等基本的な機能の提供
- 2 メディアの多様化、創造・発信など、知的活動の活発化への対応
- 3 様々な人の交流や連携などの機会の提供

「図書館の基本的な機能、メディアの多様化」に関する社会動向

社会動向① メディアの種類が増え、アクセス手段が多様化している



生成AIをはじめとしたデジタル技術の急激な進歩により、情報の記録や共有の方法が大きく変化しています。情報を伝える媒体は、書籍中心の文字情報から、映像・音声なども含む多様なメディアに広がっています。また、情報へのアクセスは容易になり、手段も多様化しています。インターネット検索により、必要な情報を素早く簡単に得られ、情報の更新頻度も高まるとともに、誰もが容易に情報の受信・発信ができるようになりました。

「知的活動の活発化」に関する社会動向

社会動向② 情報に関する知識や技術が複雑化している



情報の受信・発信が身近になり、情報に触れる機会が増えたことで、情報を扱う際に必要な技術や能力は複雑で高度になっています。情報を取るだけでなく、その正確性を判断し、解釈し、自分なりの知恵や行動につなげる力が求められ、メディアの多様化により、それを使いこなす能力の重要性が一層高まっています。このような、情報・メディアを扱う知識・能力は「メディアリテラシー」と呼ばれます。これからの社会では、あらゆるメディアから情報を得て、生活や仕事に活かし、自身の豊かな生活につなげる能力が求められます。図書館は、その力を育む役割を担うことが求められています。

「図書館に関わる人に関する社会動向

社会動向③ 社会包摂(インクルーシブ)への意識が高まっている



私たちのまちには、それぞれ多様な背景や価値観を持つ、様々な人々が暮らしています。すべての人が豊かな暮らしを送る権利を持ち、情報や知識へのアクセスも平等に保障されるべきものです。図書館は、その「知る権利」を支える大切な役割を担っています。デジタル技術は生活をより便利で豊かにする可能性を拡げる一方、技術の利用状況や情報の扱い方の違いによって、情報格差が生じることもあります。そのため、誰もがデジタル化の恩恵を受けられる環境づくりに取り組んでいくことが大切です。

「交流や連携」に関する社会動向

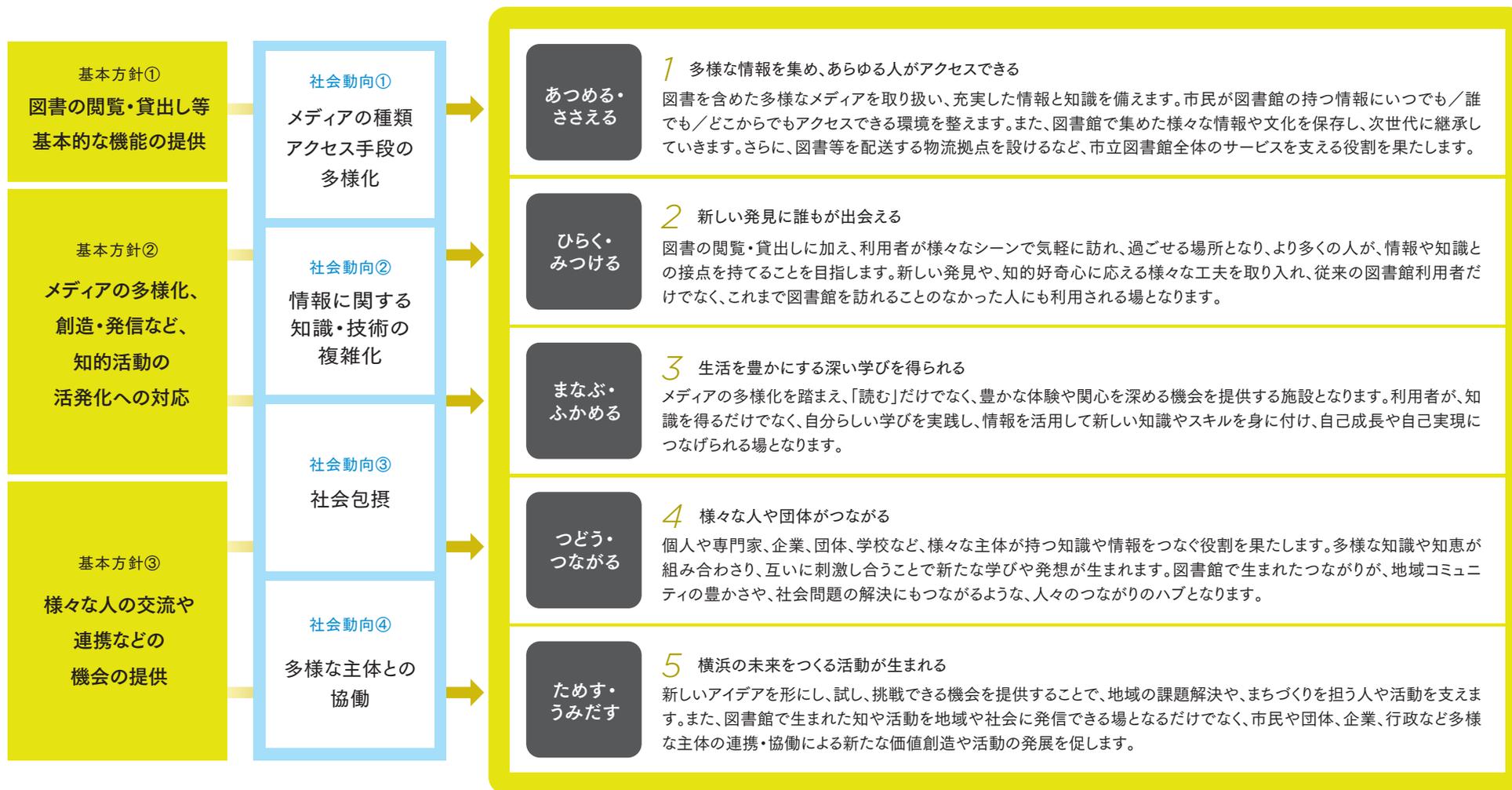
社会動向④ 多様な人・組織との協働が必要不可欠になっている



社会や地域の課題が多様化・複雑化する中、それらの解決には多様な主体の参画と協働が必要です。一方、コロナ禍以降、人々の社会的孤立が問題となり、個人レベルでも人と人とのつながりを生み出すことが求められています。こうした背景から、図書館は、帰属意識や相互理解、社会的つながりを育む協働の場として注目されています。市民、団体、企業などが相互に交流し、協働を通じて社会や地域の課題解決に取り組む場となることが期待されています。

新図書館の目指す姿

①～③の基本方針に基づき、近年の社会動向も踏まえながら、新図書館が目指す姿を整理しました。



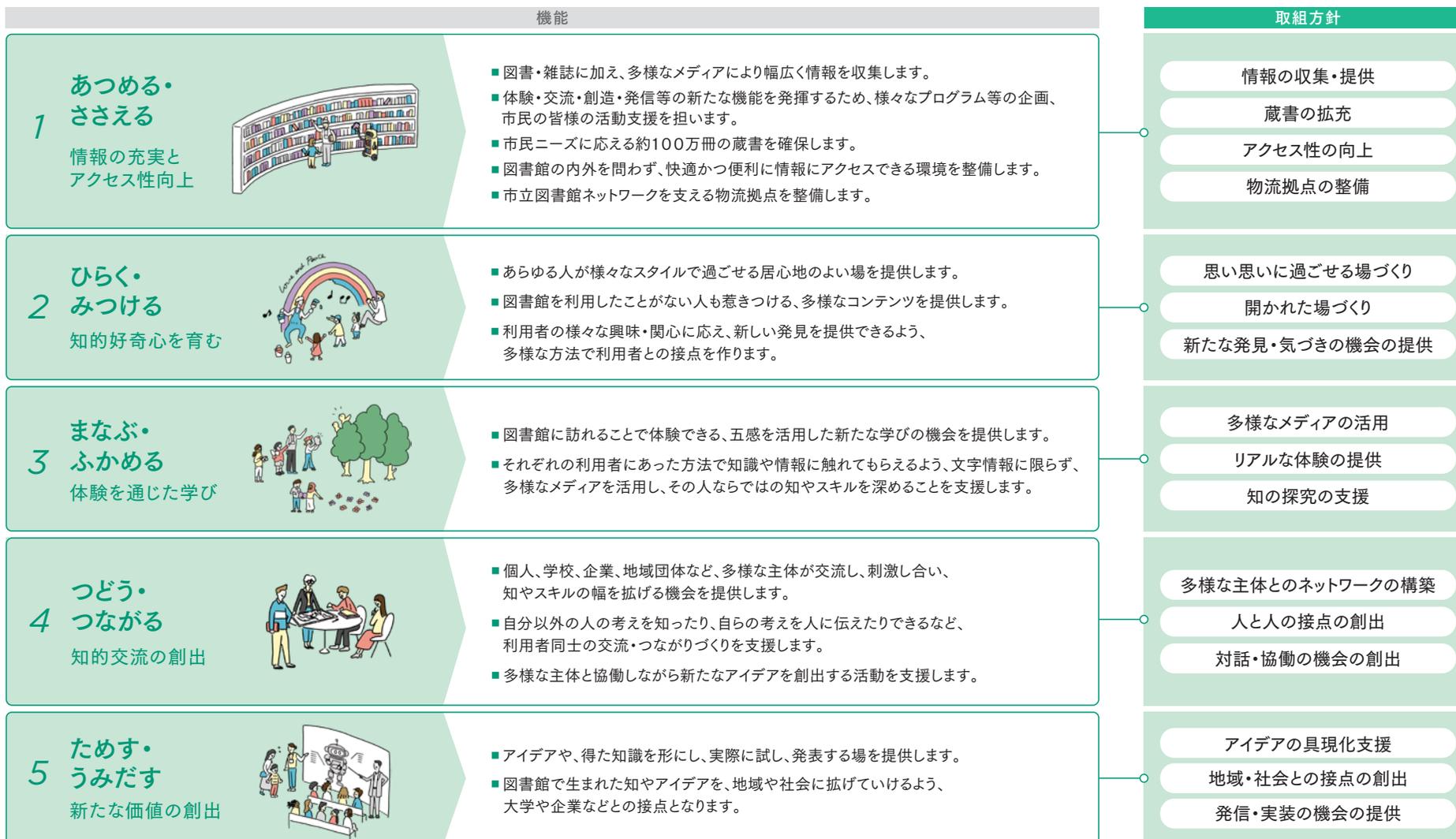
知を拡げ 人をつなぎ 新たな価値を生み出す まちの拠点

第3章

新図書館の機能

5つの機能

前章で示した、新図書館の目指す姿を実現するため、新図書館に求められる機能を次の通り整理しました。
各機能を相互に連携させることで、新図書館は「知を拡げ 人をつなぎ 新たな価値を生み出す まちの拠点」となることを目指します。
また、運営にあたっては、常に機能・取組の更新を続け、時代のニーズを取り入れ、変化し続けることで、他都市の図書館にはない、横浜ならではの機能・取組を作り上げていきます。



新図書館でできること

新図書館では、本をはじめとした様々な資料を通じて、人や地域が持つ、幅広く深い情報に触れることができます。豊富なコレクションの中で、多様な分野の情報に出会い、異なる知識をつなげることで、思考を深めたり、広げたりすることができ、新しい発見や学びを得られます。また、司書やさまざま

な専門家のサポートを受けながら、効果的に情報を探し、学ぶことができます。

必要なときは自宅や外出先からデジタル機器を使って情報に快適にアクセスすることができ、また、各図書館をつなぐ物流ネットワークにより、必要な資料をスムーズに手に取ることができます。

情報の収集・提供



図書・雑誌以外に、映像や音声、地域の方の記憶や知見といった、非活字情報等を幅広く収集し、市民の皆様が活用しやすいよう、整理し、提供します。



豊富な資料・情報を収集・蓄積するとともに、多様なメディアでの情報提供を行い、学びの深化、創造・発信を支援します。



情報の検索性に配慮しながら、情報の提供方法を工夫し、図書館での新たな知識や情報への出会いを促します。



これらの活動を継続的に実施することで、常に進化する知やメディアを、利用者が、将来にわたり自由に活用できる環境を整えます。

取組の方向性

幅広さ

- あらゆる人の興味・関心にこたえられるよう、また、体験・交流・創造・発信などの図書館内で行われる活動を支えられるよう、多様な言語に対応するとともに、幅広い分野、多様な形態の資料・情報を収集。
- 図書館やメディアに関わる最新の動向や利用状況等を把握したうえで、活字情報のみならず、音や映像、地域の方の記憶や知見といった非活字情報も含めた、多様なメディアを収集。

厚み

- 誰もが気軽に情報や知識に触れられることを重視するとともに、資料の専門性を高める。
- 多様なメディアの収集に向け、専門家や専門機関・団体等との連携も想定。また、横浜らしさや地域特性に配慮した情報など、ここでしか触れられない情報も積極的に掘り起こし、収集。

変化への対応

時代や利用者のニーズに応じた資料収集など、常に図書館を魅力的にし続けるため、変化を捉え、柔軟に対応する。

新図書館の 蔵書整備の 考え方

- あらゆる利用者の知的好奇心を喚起し、新たな知と出会う機会を創出。
- 新しいジャンルの知識・情報にもアンテナを張り、幅広い分野の図書を揃える。
- 入門的なレベルの図書から、調査・研究にも役立つ専門書まで、幅広く収集。
- 市民の知的活動から生まれた成果物をコレクションするなど、同世代の活動を集積し、将来にわたり引き継ぐ。

蔵書の 拡充



<参考> 市全体の蔵書の考え方

蔵書量

- 横浜市立図書館は、全国的に見ても有数の約400万冊の蔵書を有していますが、市民一人当たりの蔵書冊数は他の政令指定都市に比べて少なく、市民が図書に触れられる環境が十分に整っているとは言えません。また、デジタル技術の発展に伴い、近年では、電子端末での雑誌・書籍等の閲覧スタイルも広まっており、電子書籍、紙の資料、それぞれの利点も活かしながら、コレクションを充実させていきます。
- 市民の皆様の多様なニーズに対応できるよう、市立図書館全体で、新たに約100万冊の蔵書を拡充し、より幅広く厚みのある充実した蔵書を提供します。

蔵書の特徴

- 地域の読書活動や課題解決を支える知の拠点として、市民の暮らしに役立つ情報や学びのための読書を支援するため、中央図書館、新図書館、地域図書館がそれぞれの役割を担い、特色あるコレクションを構築します。
- 中央図書館では、高度な調査研究に対応できる資料・情報を重点的に収集するとともに、横浜の記憶装置として、貴重な地域資料の収集に努めます。また、地域図書館では、入門書や実用書を中心に、地域の課題やニーズ、特性を踏まえた図書を揃えています。新図書館では、誰もが気軽に情報や知識に触れられることを重視するとともに、専門書まで幅広く収集し「知の創造・発信」を支えます。横浜市立図書館全体として、バランスのとれた蔵書となるよう努めます。

アクセス性の向上



- 手に取りやすい配架や、探しやすい配置、スムーズな蔵書検索など、新図書館の保有する情報に気軽にアクセスできる環境を整えます。
- デジタル技術等を活用しながら、効率的かつ個人個人の状況に合わせた多様なアクセス方法を充実させます。

取組の方向性


 だれでも

- 「本」や「学び」に関心の高い人だけでなく、日頃、本に触れる機会が少ない人でも、知る楽しさ・学ぶ楽しさを感じられるサービスを提供
- 言語や国籍の違い、性別や年齢、障害の有無等に関わらず、すべて人が安心して、情報に触れ、学べる環境を提供
- デジタルを活用したサービスがすべての人に提供できるよう、個々のデバイスからアクセスできるシステムや、端末の貸出し等の運用方法を検討


 どこでも

- 市内のどこからでも必要な本を手に入れられるよう、新図書館の蔵書を地域図書館や取次拠点にスムーズに配送する仕組みを検討
- 図書館以外の場所からでも図書などの知に触れられるよう、学校図書館をはじめとした、図書を取り扱う施設・拠点との協力・連携を進めるとともに、電子書籍のコンテンツやデジタルアーカイブ等を拡充


 快適・便利

- 資料の貸出し・返却や管理についてもICタグ等を導入した自動化を進める
- AIを活用した案内など、図書館の利用に関する困りごと・相談ごとの解決に、デジタル技術等の導入を検討
- オンラインでの施設等の利用予約など、さらなる利便性の向上を検討

物流拠点の整備

- 図書を借りたいニーズに円滑に対応できるよう、市内全域の物流網の機能拡充を図るため、新図書館に物流拠点を整備します。
- 効率的で最適な物流網、配送ルートを構築します。



各機能の取組方針

機能 2 知的好奇心を育む

ひらく・みつける

新図書館でできること

新図書館は、本や情報に触れるだけの場所ではありません。好きな時に、好きなスタイルでゆったりと過ごすことができます。一人で静かに読書を楽しむことも、飲み物や軽食を片手にくつろぐこともできます。周囲には、本をじっくり読んでいる人や友人と一緒に勉強している人もいます。子どもたちは好きな本を選んで読んだり、声を出して遊んだりできます。

新図書館で時間を過ごしていると、今まで目を向けてこなかったジャンルの本や情報が自然と目に入ってきます。ニュースで耳にしたキーワードなど、生活の中で触れるテーマに関連した配架や展示、イベントが行われています。「おもしろい」「楽しい」という感覚をきっかけとして、情報に触れたり、人と話したりすることを通じ、視野を広げることができます。



思い思いに過ごせる場づくり

本を読む人、学びに没頭する人、仲間とともに過ごす人など、異なる過ごし方が共存し、誰もが思い思いの時間を過ごせる施設づくりを行います。賑やかに過ごしたい人も、静かに過ごしたい人も満足できる場所があり、子どもたちをはじめ、すべての人が安全・安心、快適に過ごせるような空間とサービスを提供します。

取組例

- 様々なスタイルで、誰でも自由にくつろげる空間づくり
- 場所・空間の柔軟な活用
- 様々な使い方に対応する寛容なルール設計
- 子ども・子育て世帯向けの情報の充実
- 子どもが安心して過ごせる環境の充実
- 靴を脱いで過ごせるスペースの設置



開かれた場づくり

日常生活の中で図書館を身近に感じられ、目的がある人も、ない人も、気軽に立ち寄ることができる、自由で開放的な施設づくりを行います。自分以外の利用者の活動が見えるオープンな空間で、自然と人が集まり、様々な活動や交流につながる場づくりに取り組みます。

取組例

- カフェなど、飲食ができ、自然に人が集まれるスペース
- 団体やグループでも使いやすいスペースの設置
- 子ども・若者が集まり、活動できる場の提供
- 子どもの賑やかな声を受け入れる空間配置
- 遊び場の設置
- 思わず入りたくなるオープンな空間づくり
- 図書館に来たことがない方に向けたイベントや企画



新たな発見・ 気づきの機会の提供

思いがけない本との出会いや、ふとしたきっかけで新しい情報を手に入れる体験など、意外な発見を促す取組を通じ、利用者が新しい発想を生み出すきっかけを提供します。また、これまで図書館をあまり利用してこなかった方にも興味・関心を持ってもらえるよう、親しみやすいコンテンツや企画を提供するなど、「関わってみたい」「もっと知りたい」「また来たい」と感じてもらえるような場づくりに取り組んでいきます。

取組例

- テーマ配架の導入
- 多様な世代に訴求する内容の企画
- 企画展など時期に応じてテーマが変わるプログラムの実施
- 映像や音声などを使った利用者の興味・関心を引く展示等
- 能動型・プッシュ型の情報発信
- 国外の資料の提供
- AI等による検索支援
- 学校の課外活動など他機関・団体との連携

各機能の取組方針

機能 3 体験を通じた学び

まなぶ・ふかめる

新図書館でできること

本などのメディアから得た知識を、スキルとして身に付け、実際の行動や活動に活かすことができます。例えば、本で読んだ料理のレシピを使って実際に料理を作る、本で学んだプログラミングを実践してゲームを作る、借りた楽譜でアンサンブルの練習をするなど、得たこと、学んだことを実践できる場所

があります。また、「学び」には一人でじっくり考える時間も欠かせません。本を読んだり、映像を見ただけではわからないときには、司書はもちろん、他の利用者やAIを活用したツールからアドバイスを受けることができます。こうした学びや実践を通じ、情報や知識を活用する力を身に付けることができます。



多様なメディアの活用

文字を読むことで情報を得るだけでなく、例えば、身体を動かしたり、音や匂い、触感など、“五感”を通じた学びや体験も提供します。従来の図書資料のほか、デジタル資料、映像・音声、VR/AR等の体験型メディア、実物資料など、幅広い媒体に触れられる環境を整えます。

取組例

- 新たなメディアの積極的な導入
- 新たなメディアを使いこなすリテラシー向上の支援
- 館内でのデジタルデバイスの拡充
- 映像、音声メディア等の充実
- 五感に働きかける多様なプログラムの提供
- 本の世界を体験できるVRコンテンツの提供



リアルな体験の提供

多様なメディアから得た知識や情報を、実際に手で触れたり実物を見たり、自ら作ったりする体験を通じ、スキルの習得や向上につなげることを目指します。

取組例

- アーティストやクリエイターによる創作講座（本の執筆講座など）
- 体験型スタジオの設置（音楽、ダンス、料理、工作、動画制作等）
- 実物資料を使った触れる展示やイベントの実施
- 本の世界を拡張する工作や料理イベントの実施
- 身体を動かす、音を奏でるなど、自己表現を行うプログラムの実施
- 館内ツアーや謎解きなどの参加型イベントの実施



知の探究の支援

利用者それぞれのスタイルに合わせて知識や考えを深め、学べる環境を整備します。また、知りたいことや学びたいことを確実に見つけられるよう、司書などの専門スタッフが利用者へ寄り添いながら、情報の探し方や学び方、情報の活用方法などについて、幅広くサポートします。

取組例

- 司書による情報探索の支援
- 情報リテラシーを身に付ける機会の提供
- 調べたり学んだりすることに集中できる静かな空間
- 多様な専門家による相談受付
- 専門家や教育機関等との連携等による多様なプログラムの提供
- 閲覧席や学習席といった座席の拡充（800席程度を想定）

各機能の取組方針

機能 4 知的交流の創出

つどう・つながる

新図書館でできること

本の感想をシェアしたり、同じテーマに興味をもつ人が集まるイベントに参加したりするなど、本やメディアを通じてほかの人の価値観や考えに触れることができます。企業や団体にとっては、強みや特徴を発信し、共同プロジェクトを生み出すきっかけになります。個人・団体を問わず、専門家や得意分

野を持つ人・組織と出会い、つながることができます。図書館のスタッフが施設で行われているこれらの活動を把握しており、時にはミニイベントを開いたり、利用者に声をかけたりするなど、日常的に交流が行われています。



多様な主体とのネットワークの構築

個人だけでなく、団体や企業など多様な主体が利用できる場を作ります。また、地域の子どもの学びを支えられるよう、学校や関連機関等と連携する体制づくりも行います。こうした取組を通じ、個人の利用者や団体・企業が持つ情報や知識を幅広く集め、共有できる環境を目指します。

取組例

- 企業や研究機関等との連携
- 学校や関連施設との連携
- 市の施策と連携した事業の実施
- 団体や企業等が一定期間活動できる場の整備
- 地域内の専門家の紹介等



人と人の接点の創出

図書館に訪れた人が、周囲の人々の存在や活動を身近に感じられる環境を整えます。利用者同士がお互いの知識や考え、得意分野を伝えあい、仲間づくりができるようにします。また、利用者同士の直接的な交流以外にも、情報やメディアへの感想をお互いに共有できる仕組みなど、気軽なコミュニケーションも促します。こうした場を通じて、ここで集まった人々が知り合い、対話し、知を介したコミュニティを拡げていくことを目指します。

取組例

- コミュニティマネジャーの配置など、交流を生み出す体制づくり
- 本を介した交流を生み出す企画
- 利用者等の活動を知る機会の提供
- 専門家の紹介サービス
- 地域内の人とのマッチング
- 多様な世代が交わるイベントの実施
- オンライン上での交流の創出
- 世代や文化・国籍を超え、多様な利用者が出会い交流する機会の提供



対話・協働の機会の創出

利用者同士が直接または間接的に交流できる場をつくります。また、運営者と利用者が双方向で対話し、利用者が主体的に参加できる取組を検討します。こうした取組により、図書館利用者が個々に学ぶだけでなく、利用者同士がつながり、互いに学び合う環境をつくります。

取組例

- 利用者が講師・指導者となる講座
- グループ活動ができるスペースの提供
- 利用者が運営に参画できるプログラムの提供
- 利用者の多様な声を聴く機会の設定

各機能の取組方針

機能 5 新たな価値の創出

ためす・うみだす

新図書館でできること

新図書館で得た知識や、出会った仲間と一緒に、ものづくりや新しい活動に取り組むことができます。図書館には、地域の魅力や課題を文章や写真・映像として記録し、情報を蓄積する仕組みがあり、こうした情報を活用することで、各個人の「得意」を活かして様々なことにチャレンジすることができます。例えば、利用者同士で協力し、地域の魅力づくりを手伝ったり、専門家と協力し、地域

課題解決のためのプロジェクトを立ち上げたり、図書館の中で生まれた知を、社会に広げ、新しい価値を提供することができます。また、活動や取組の成果を積極的に情報発信し、新たな仲間づくりにつなげることができます。



アイデアの具現化支援

図書館で得た知識を活かし、新しいアイデアや活動を生み出します。複数の人・団体が協働して活動できるよう、共創ラボなど、交流しながらプロジェクトを進められる場を設けます。集った人々が創造力を育み、図書館の中だけでなく、地域や社会に向けて発信できるよう、多様な発表の機会を提供します。

取組例

- ものづくりができる空間・設備の提供
(Fablab、デジタルデバイス環境などの拡充)
- 多様なツールを活用した表現の支援
- 利用者が運営に参画できるプログラムの実施
- グループでの活動時に利用できる、共創ラボの整備



地域・社会との接点の創出

地域・社会の魅力や課題を知る機会を提供し、課題解決に向けたアイデアを積極的に提案できる場をつくるなど、身に付けた知識やスキルを、社会や地域づくりに活用できる機会を提供します。また、継続的に、企業や団体など図書館外部の主体との連携を行います。

取組例

- まちの文化や写真、映像などの収集
- まちの魅力や課題を発見できるイベントの実施
- 地域のことをよく知る人との交流機会の創出
- 地域のことにに関する情報発信コーナー
- 実験フィールドの提供・社会実験の実施支援
- 企業や大学とのマッチング支援
- 活動期間中、継続して使えるプロジェクトルームの提供
- 利用者の活動を生み出す支援の提供(助言等)
- 地域の書店等と連携した取組の実施



発信・実装の機会の提供

利用者が生み出したアイデアや活動を集め、リアルとデジタルの両面で発信する機会を設けます。実践に向けた相談や仲間づくりをサポートし、新たなサービスや活動の創出につなげます。

取組例

- 活動の成果発表の場の提供
- SNS等の多様な手段を活用した情報発信の支援
- 動画の作成・配信ができる設備
- イベント等が可能なスペースの配置
- 行政との連携窓口の設置
- 地域の人や団体とのネットワーク構築支援
- 必要な専門家による支援の提供
- 市場ニーズ等の把握の支援

各機能を支えるデジタル技術の活用に関する方針

新図書館の備える機能を効果的・効率的に運用するうえでは、施設(ハード)・サービス(ソフト)・デジタルの3つを一体的に検討し実現することが重要です。デジタル技術を効果的に活用し、新たなサービスや、それを通じた新図書館での新たな体験を創り出します。

デジタル技術は急速に発展し、その活用は図書館のサービスの価値向上や運営の効率化に大きな可能性があることから、デジタル技術導入の目的と取組の方向性を示します。

「再整備の方向性」で示したデジタル技術導入の目的

図書館との接点を拡大

これまで図書館を利用しなかった方にも興味・関心を持ってもらえる仕掛けの導入



図書館の新たな価値の創造

図書中心のサービスでは十分に実現できなかった知の創造・発信につながる新しい体験の提供



便利で使いやすい図書館の実現

利用者サービスの向上と管理運営の効率化につながる仕組みの導入



取組の方向性

1



図書館サービスに触れるきっかけづくり、図書館の間口の拡大
(電子書籍の拡充、AIによる本の紹介、多様なメディアによる情報の提供など)

2



体験、交流、創造・発信機能をデジタル技術により下支え
(映像や音声による空間展示、3Dプリンター等デジタル工作機械の導入など)

3



利用者サービスの向上
(質問応答、資料検索、パーソナライズドサービスなど)

4



図書館業務の効率化
(蔵書管理、自動貸出し・返却、案内業務など)

第4章

空間計画の方針

必要なスペース

各機能が十分に発揮されるためには、ソフト(サービス提供)に加え、ハード(建物)として、必要な要素・特徴を備えた空間・諸室を整備する必要があります。そこで、各機能に関連する空間・諸室(例)を、その特徴や必要な設えを踏まえ、次の通り「スペース」としてまとめ、整理しました。具体的な配置は今後検討していきますが、これらの「スペース」は明確に区分せず、ゆるやかに施設の中に散りばめることも検討します。

		各機能との関連				
		機能 1 情報の充実と アクセス性向上 あつめる・ささえる	機能 2 知的好奇心を 育む ひらく・みつける	機能 3 体験を通じた 学び まなぶ・ふかめる	機能 4 知的交流の 創出 つどう・つなげる	機能 5 新たな価値の 創出 ためす・うみだす
スペース	図書・閲覧関連スペース <ul style="list-style-type: none"> ■開架書架 ■主に閲覧のための空間 	●				
	多様な滞在スペース 日常的な憩いの場、知や体験の入口 <ul style="list-style-type: none"> ■誰でも自由に寛げるラウンジ空間 ■通りかかった人が入りたくなるオープンな空間 ■新たな知識に気軽に出会える展示 ■調べものや学習に没頭できる静かな空間 		●	●	●	●
	交流・共創スペース 各機能との接点を生み、 利用者同士の活動や情報をつなげる <ul style="list-style-type: none"> ■地域のことにに関する情報発信コーナー ■グループ活動ができる部屋・席 ■活動成果発表ができる多目的ホール、ギャラリー ■活動期間中に占有できるプロジェクトルーム 			●	●	●
	創造・体験・活動スペース 知と触れながら学びを深め、 表現、実践、参加の機会を提供 <ul style="list-style-type: none"> ■ものづくりができる空間 ■五感を使った体験の場 ■グループ活動ができる空間 ■他の利用者の活動が見える場 		●	●		●
	子ども・ティーンズスペース 多様な感覚を刺激し、学びの機会を提供 <ul style="list-style-type: none"> ■子ども・若者の自由な活動の場 ■子どもの賑やかな声と共存できる空間 ■子どもや若者を対象とした遊び空間 ■学校等と連携した課外活動に利用できる場 		●	●		
	市立図書館 ネットワーク支援関連スペース <ul style="list-style-type: none"> ■市立図書館ネットワークを支える物流拠点 ■開架書架 	●				
	共用・事務管理スペース <ul style="list-style-type: none"> ■事務室・建物管理関連諸室 ■階段、廊下、トイレ等 ■機械室・サーバー室等 ■駐車場・駐輪場 	●	●	●	●	●

規模の考え方・スペースの構成

座席数や備える蔵書の規模など各スペースに必要な面積から新図書館の概ねの規模を下表のとおり整理しました。今後、各スペースの詳細を検討する中で、より具体的に検討していきます。

施設整備の方針

- 読書環境の充実 … 蔵書不足の解消に向け、約100万冊を収蔵。閲覧席等の「座席」を約1,000席確保。
- 体験、交流、創造、発信等新しい機能の整備 … 1,000人程度が滞在・活動できる空間を確保
- 市立図書館ネットワーク支援機能の確保 … 書庫、物流拠点等を整備

エリア	整備する空間・諸室	想定規模
図書・閲覧等の基本的機能を提供するエリア	図書・閲覧関連スペース 例 開架図書(40万冊程度を想定)、閲覧席(約800席※)等	6,000㎡程度
体験、交流、創造、発信等新しい機能を提供するエリア	多様な滞在スペース 例 オープンなラウンジ、静寂な部屋等(約200席)	5,000㎡程度
	交流・共創スペース 例 多目的ホール、ギャラリー 等	
	創造・体験・活動スペース 例 ものづくりができる空間、グループ活動ができる空間 等	
子ども・ティーンズ関連スペース	子ども・ティーンズ関連スペース 例 遊び空間、自由な活動ができる空間 等	5,000㎡程度
	共用・事務管理スペース 例 廊下・階段・トイレ・駐車場・駐輪場 等	
新図書館利用者へのサービスを支えるエリア	共用・事務管理スペース 例 廊下・階段・トイレ・駐車場・駐輪場 等	5,000㎡程度
市立図書館ネットワークを支えるエリア	市立図書館ネットワーク支援関連スペース 例 物流拠点、閉架書架(60万冊程度を想定)等	2,000㎡程度
事務管理関連エリア	共用・事務管理スペース 例 事務室、建物管理関連諸室 等	2,000㎡程度
合計		20,000㎡程度



※ 現中央図書館は約650席

空間デザインの考え方

近年、全国の都市では、市民が集う場として、さまざまな機能を組み合わせた図書館が増えています。これらの図書館には、誰もが利用しやすい開放性、用途に応じて柔軟に使える空間、建物の外との連携、などの特徴があります。また、館内の各スペースはゆる

やかにつながり連動しながら機能しています。

こうした考え方も取り入れながら、新しい図書館が「知を拡げ 人をつなぎ 新しい価値を生み出すまちの拠点」となるための空間デザインの考え方を示します。

内部空間のデザイン

シームレスで開放性の高い 大きな一つの空間	時代の変化や多様な利用ニーズに フレキシブルに対応できる空間構成
空間を適度に分節し、会話や活動が できる空間や静寂な空間等、 利用形態にあわせた 多様な居場所が配置された空間	分節された空間が有機的につながり、 目的や気分にあわせて、 自分のスタイルにあった過ごし方が できる居場所を選択できること
館内を歩いているだけで、 様々な活動が見え、 興味を惹かれるなど、人・情報・知が、 自然につながる空間づくり	外部の要素を内部に引き込むなど、 まちとの連続性が 意識された空間づくり
構造、環境、地域性等、 様々な要素を踏まえつつも、 省エネルギーに配慮した 快適な空間づくり	年齢や文化、障害の有無等に関わらず、 誰もが円滑に建物内外を移動でき、 安心・快適に利用できる ユニバーサルデザインに 配慮した空間づくり
コレクションの特性に 応じた適切な保管環境の整備	開放的なスペースや 災害時への備えなど、 地域に開かれ、まちと共に 歩いていく空間づくり

外部空間のデザイン

図書館内部の賑わいが表出し、 周辺を通過する人通りを 引き込むような外観
景観、まち並みといった 全体の統一感があるなかで、 個々の多様性が感じられる外観
居心地のよい、 内部空間のような外部空間が つくられていること
横浜らしさを感じ、 市民が誇りを感じられるような シンボル性や親しみのあるデザイン



第5章

立地

整備予定地

利用者のアクセス性、物流拠点としての適性、

全市的なまちづくり・市域バランスの3つの視点から検討を行い、整備予定地を選定しました。

新図書館は、公共交通機関での来館に加え、徒歩・自転車・自家用車など、多様な手段での来場を想定し、

周辺まちづくりとも連携しながらアクセス環境を整備します。

整備予定地の概要	
所在	港北区新横浜二丁目1番5
面積	2,796.29㎡
周辺環境	<ul style="list-style-type: none"> ●新横浜駅から徒歩1分(JR・市営地下鉄・東急・相鉄) ●北口駅前広場に隣接
土地所有者	横浜市
現況	資材置き場
主な都市計画制限等	用途地域:商業地域 建ぺい率:80% 容積率:800% 高度地区指定:第7種高度地区・最低限第1種高度地区 地区のルール:新横浜駅北部地区街づくり協議地区



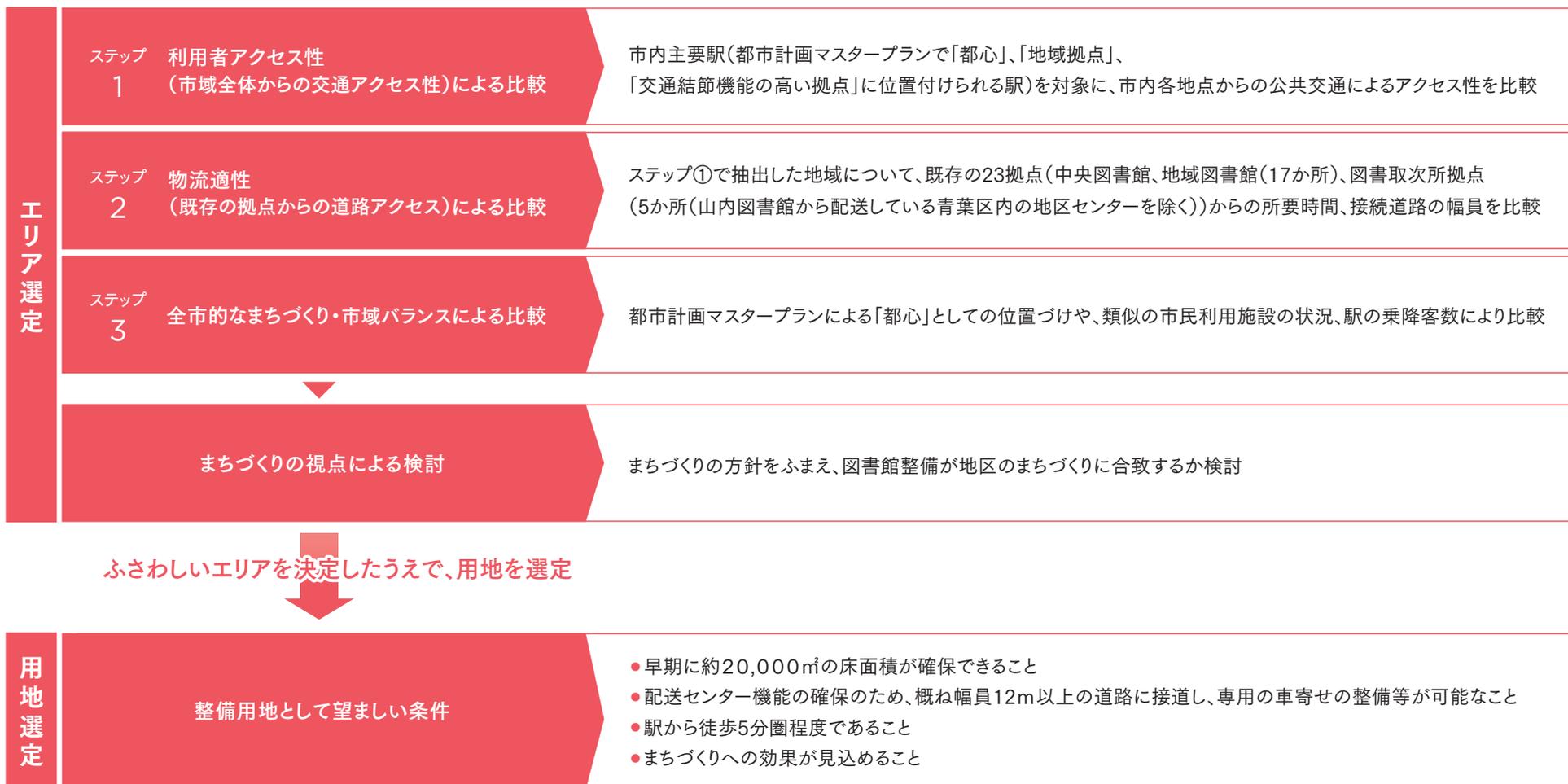
整備場所検討の経過

① 検討の考え方

①利用者のアクセス性、②物流拠点としての適性、③全市的なまちづくり・市域バランスの3つの視点から新図書館の立地にふさわしいエリアを抽出します。

その後、まちづくりの視点による検討を踏まえ、エリアを選定します。

エリア選定の後、新図書館を整備する用地を選定します。



整備場所検討の経過

② エリア選定

ステップ 1

利用者アクセス性
(市域全体からの交通アクセス性)
による比較

手順1

都市計画マスタープランに位置づけのある駅(31駅)を「対象駅」として抽出

手順2

「対象駅」各駅について、市内各地の36駅(各区の利用者数の多い上位2駅)からの所要時間を算出

手順3

「対象駅」のうち利便性の高い上位5駅を、「候補駅」として設定

候補駅は、

1. 横浜駅
2. 桜木町駅
3. 東神奈川駅
4. 新横浜駅
5. 関内駅

ステップ 2

物流適性
(既存の拠点からの道路アクセス)
による比較

手順1

「候補駅」について、駅周辺を通る主要道路の幅員を比較

手順2

「候補駅」について、既存の23拠点(中央図書館、地域図書館(17か所)、図書取次拠点(5か所(山内図書館から配送している青葉区内の地区センター等を除く))からの所要時間、主要道路の状況を比較

各駅とも、周辺に高規格の道路あり
また、各拠点からの平均時間は、約32～34分。
横浜駅、新横浜駅が比較優位

ステップ 3

全市的なまちづくり・
市域バランスの視点
による比較

手順1

「候補駅」について、乗降客数、都市計画マスタープランによる位置づけ・エリア内の近隣の類似の市民利用施設(図書館・美術館・博物館等)の立地状況を比較

手順2

「候補駅」各駅の乗降客数を比較

市における図書館の配置バランスの観点

横浜都心エリアには中央図書館が立地

類似施設の立地状況

横浜都心エリアには複数立地するが、新横浜都心エリアには無し

新図書館は新横浜都心エリアでの立地が適する

まちづくりの
視点による
検討

ステップ①～③で抽出した整備エリア候補について、
地区のまちづくり方針等を踏まえ、
図書館整備の有効性を検討

新横浜駅北部地区のまちの将来像の実現に向けて、
新図書館の立地はまちづくりの推進に寄与する

整備場所検討の経過

参考 各ステップでの比較

	市内各地域からの所要時間 (上位5駅)	横浜駅 平均14.4分	桜木町駅 平均20.3分	東神奈川駅 平均20.3分	新横浜駅 平均21.3分	関内駅 平均21.9分
1 利用者アクセス性	接続路線数	8 路線	2 路線	3 路線	5 路線	2 路線
2 物流適性	既存拠点からの 平均所要時間	○ 約32分	△ 約33分	△ 約34分	○ 約32分	△ 約34分
	接続する主要道路の幅員 (最大値)	○ 幅員約55m	○ 幅員約40m	○ 幅員約50m	○ 幅員約50m	○ 幅員約50m
	駅乗降客数	◎ 約196万人 (市内第1位)	△ 約18万人 (市内8位)	× 約9万人 (市内第18位)	○ 約36万人 (市内第2位)	× 約14万人 (市内第12位)
3 全市的なまちづくり・ 市域バランスの 視点による比較	都市マスの位置づけ	○ 横浜都心	○ 横浜都心	○ 横浜都心	○ 新横浜都心	○ 横浜都心
	エリア内の類似施設の有無 (無=○、有=×)	×	×	×	○	×

整備場所検討の経過

③ 用地選定

既存施設・ 民有地の利用検討

- 図書館は、建物計画において蔵書荷重を想定して構造設計をする必要がある。このため、蔵書荷重を想定していない既存建物への入居による図書館整備は困難。
- 不動産情報を調査した結果、新横浜エリアに新図書館の整備用地に適する民有空き地はない。

以上のことから、新図書館の整備にあたっては、新横浜駅周辺の未利用市有地や、再開発事業等を候補とし、以下の**視点**に基づき、条件を満たす土地を調査した結果、「新横浜二丁目1番5」が適地であるため、整備予定地として選定しました。

用地選定の視点

施設規模確保の視点

約20,000㎡の床面積が
確保できる土地であること

接道要件の視点

図書を配送する車両がスムーズに出入りできるよう、
概ね幅員12m以上の道路に接道しており、
車寄せの整備が可能であること

駅からのアクセス性の視点

市内各地域から多くの方が来館しやすいよう、
駅から概ね徒歩5分圏が望ましい

まちづくりの視点

新横浜駅周辺のまちづくりへの効果が
より望める土地であること

まちづくりの視点

新横浜駅北部地区のまちづくりの方向性

都市機能

都市機能集積や企業と地域が一体となったまちの魅力創出

交通・インフラ

広域交通結節点の機能強化

回遊・滞留

集まりたくなる場づくりと地区をつなぐ回遊性の強化

景観

ビル群や住宅地などエリアの個性を生かした都市景観形成

環境

環境にやさしいまちづくりとライフスタイルの推進

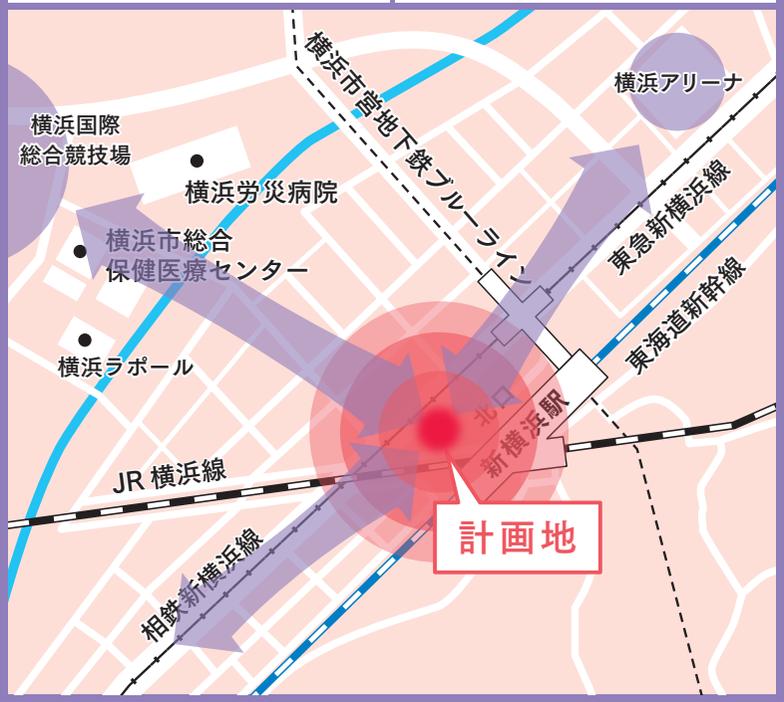
防災

地域で備える安全と安心、防災と減災への備え

まちづくりと新図書館整備の連携

期待される効果

新横浜の新たな魅力創出	図書館の魅力・賑わい向上
地域・企業の交流の場	新たな知の創出・発信
多様な都市機能	まちなかへの回遊・滞留の創出



新図書館の目指す姿

知を拡げ 人をつなぎ
新たな価値を生み出す まちの拠点

あつめる・ささえる

情報の充実とアクセス性向上

ひらく・みつける

知的好奇心を育む

まなぶ・ふかめる

体験を通じた学び

つどう・つなげる

知的交流の創出

ためす・うみだす

新たな価値の創出

整備手法・管理運営の方針

整備手法の考え方

本構想で示す新図書館を実現するため、今後、整備手法を決定します。
 空間デザイン、運営、デジタル、維持管理など、新図書館の役割を果たすために必要な視点に加え、
 整備費や管理運営費等の財政負担軽減や財政支出の平準化といった経済的な視点、
 時代の変化に対応した魅力維持のための民間活用の視点、整備までの期間など、多角的に比較・検討を行っていきます。



様々な整備手法を活用した最近の事例 整備手法は、整備主体、一括発注の範囲、資金調達の方法等により様々な手法があります。

	従来方式	DB (Design-Build)	DBO (Design-Build-Operate)	PFI-BTO	賃貸借	買取
概要	自治体が資金調達し、設計・建設・維持管理・運営を分離発注する	自治体が資金調達し、設計と建設を一括発注する。維持管理・運営は分離発注する。	自治体が資金調達し、設計と建設と維持管理・運営を一括発注する。	民間が資金調達し、PFI事業契約に基づいて設計・建設・維持管理・運営を行う。自治体は分割して整備費を支払う。	民間が公共施設を含む複合施設を整備し、公共施設部分を自治体が賃借する。	民間が公共施設を含む複合施設を整備し、公共施設部分を自治体が取得する。
事例	石川県立図書館	茨木市文化・子育て複合施設おにクル	廃棄物処理施設の事例多数	安城市中心市街地拠点施設アンフォーレ	富津市立図書館	あかし市民図書館 (市街地再開発事業によるもの)

管理運営の考え方

新図書館は、アクセス性の高い場所に立地し、多様なニーズに対応した図書館となることから、これまで図書館を利用しなかった方も含め、多くの市民の皆様に来館していただくことを目指しており、年間の来館者数は300万人と想定しています。

利用者が快適に施設を利用し続けられるためには、それぞれのサービス・取組を安定的・継続的に実施していくことが求められます。また、新図書館が、「知を拡げ、人をつなぎ、新たな価値を生み出すまちの拠点」であり続けるためには、将来にわたり、計画的・効果的に機能・

設備等を保全・更新するとともに、時代・社会のニーズを取り込み、機能やサービスを検証・更新し続けることが重要です。

また、そのためには、行政や民間、市民、NPO等、多様な主体がそれぞれの知見を活かしながら管理・運営に関わる必要があります。

施設の機能を最大限発揮し、将来にわたり魅力的な施設であり続けられるよう、公民連携の視点も持ちながら、管理運営の仕組みについて、今後検討していきます。

参考

有識者ヒアリング等でいただいた、管理・運営に重要な視点

1

新図書館の機能を最大限に発揮するため、各機能を連携させ一体的にサービスを提供する

2

利用者目線でサービスを改善し続け、常に居心地のよい場を提供する

3

社会ニーズやメディアの変化に柔軟に対応し、サービスの改善と新たな挑戦に取り組む

4

多様なサービスを効果的に提供するため、ノウハウを有する多様な主体との連携を検討する

資料編

石川県立図書館

老朽化・狭あい化が課題となり、旧金沢大学工学部跡地へ移転・再整備。閲覧席を拡充したほか、食文化体験スペースやモノづくり体験スペース等、文化交流のためのさまざまな空間を整備。施設中央部の吹き抜けの大閲覧空間(グレートホール)では、身近で馴染み深い12のテーマに基づく配架や、本の表紙を見せる配架など、利用者が本を手に取りたい工夫がなされている。



移転前立地	石川県立図書館(金沢市本多町)	移転後立地	石川県立図書館(金沢市小立野2丁目43番1号)
移転前開館年	1912年1月	移転後開館年	2022年7月
移転前規模	8,641㎡	移転後規模	22,721㎡
移転前利用状況 (2020年度)	利用人数:122,689人 貸出冊数:132,185冊	移転後利用状況 (2023年度)	来館者数:1,026,046人 貸出冊数:612,181冊 座席数:約500席(100種類以上の椅子を設置)
導入機能	閲覧エリア、こどもエリア、文化交流エリア (だんだん広場、食文化体験スペース、ブックリウム、カフェ、石川県立自然史資料館コーナー、モノづくり体験スペース、ラーニングスペース、研修室 等)		
背景・目的	旧石川県立図書館は、「新石川県立図書館基本構想」の策定時点で都道府県立図書館で4番目に古く、また建築面積・延床面積・収蔵能力のいずれも都道府県立図書館平均を下回っており、老朽化・狭あい化が問題となっていた。		
移転による効果	来館者数は2023年・2024年ともに100万人を超え、都道府県立図書館のなかで最も多い。		

出所:石川県立図書館(<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/index.html>)、

石川県立図書館年報・要覧(<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/aboutlibrary/739.html>)

茨木市文化・子育て複合施設おにクル

中心市街地にある市民会館跡地に、「市民が歩いて訪れたい公共施設」として、複合施設「おにクル」を整備。市内で最も老朽化の進んでいた中条図書館を、茨木市文化・子育て複合施設 おにクル内の「おにクルぶっくぱーく」として移転・再整備。移転・再整備により、図書館部分の面積は大きく増加し、座席数も拡充された。おにクルは、開館後約1年半で300万人以上が来場し、おにクルぶっくぱーくの貸出人数・貸出点数も増加している。



移転前立地	中条図書館(茨木市東中条町2番13号)	移転後立地	おにクル内(茨木市駅前三丁目9-45)
移転前開館年	1973年1月	移転後開館年	2023年11月
移転前規模	989.28㎡	移転後規模	おにクル:19,715.22㎡(芝生広場3,913.6㎡) おにクルぶっくぱーく:2,371.26㎡
移転前利用状況 (2022年度)	来館者数:220,396人 貸出人数:106,555人	貸出点数:459,884冊 座席数:73席	移転後利用状況 (2024年度)
			来館者数:767,457人(※2023年度・おにクル全体) 貸出人数:183,648人 貸出点数:678,989冊 座席数:449席
導入機能	芝生広場、カフェ、クッキングラボ、共創推進課事務室、会議室、コワーキングスペース、市民交流スペース、ホール、音楽スタジオ、多目的室、ホール、こども支援センター、一時保育室、図書館、屋上広場、プラネタリウム ほか		
背景・目的	2015年12月に茨木市市民会館が、経年劣化や耐震性、バリアフリーなどの課題から閉館を迎え、その跡地と隣接するエリアを、まちづくりの中心とすることを目指し活用する目的で取組が進められた。		
移転による効果	徒歩や自転車で訪れる人も多く、「おにクル」を目的地に訪れ、周辺を回遊する人が増えている。 子育て世代のほか、近隣の中高生や大学生が訪れるなど、時間帯により、さまざまな層が利用している。		

出所：茨木市文化・子育て複合施設 おにクル HP(<https://www.onikuru.jp/>)、茨木市立図書館 図書館要覧(https://www.lib.ibaraki.osaka.jp/?page_id=130)、

令和6年度第1回図書館協議会 資料1令和5年度事業実績(https://www.lib.ibaraki.osaka.jp/?page_id=481)、

令和5年度第2回図書館協議会 資料3 おにくるブックパークについて(https://www.lib.ibaraki.osaka.jp/index.php?action=pages_view_main&block_id=2281&page_id=475&active_action=announcement_view_main_init#_2281)

大和市文化創造拠点シリウス

市内の生涯学習センターや図書館の老朽化・機能不足の課題に対応するため、再開発事業計画を見直し、文化複合施設として整備を行った。2路線が乗り入れる大和駅から徒歩3分の場所に立地し、従前の施設に比べアクセス性が向上した。各施設が共通のテーマのもと事業を行うことで、施設全体での盛り上がりを醸成するなど、複合施設であることを最大限に活用している。



移転前立地	大和市深見西一丁目2番17号	移転後立地	大和市大和南一丁目8番1号
移転前開館年	1964年8月	移転後開館年	2016年11月
移転前規模	9,117.32㎡(※図書館・学習センターのみ)	移転後規模	シリウス:26,003.33㎡ 大和市立図書館:6,560㎡ 大和市生涯学習センター:2,953㎡
移転前利用状況 (2015年度)	貸出利用者数:288,492人 貸出冊数:482,947冊	移転後利用状況 (2024年度)	来館者数:2,939,216人(※シリウス全体) 貸出利用者数:224,452人 貸出冊数:684,304冊 読書ができる席数:約1,000席
導入機能	ホール、図書館、生涯学習センター、屋内子ども広場、駐車場等		
背景・目的	再整備前のホール機能を兼ね備えた生涯学習センターや図書館は、老朽化や機能不足の課題を抱えていた。文化施設における課題の解決、市民の利便性の向上に加え、高齢社会に対応したまちづくりを進めるべく、再開発事業計画を見直し、公共施設(ホール、図書館、学習センター、屋内子ども広場など)を整備した。		
移転による効果	開館後4か月半で来館者数が100万人を超え、にぎわいの空間、地区の活性化などに寄与している。		

出所：大和市 代表的な施設(<https://www.city.yamato.lg.jp/recruitment/yamatoshinitsuite/22365.html>)、令和6年度大和市文化創造拠点等指定管理者事業報告概要及び評価(<https://www.city.yamato.lg.jp/material/files/group/48/gaiyou-hyoukaR6.pdf>)、大和市立図書館 図書館年報(https://www.city.yamato.lg.jp/gyosei/soshik/61/tosho_manabi/4810.html)、文部科学省 社教施設の複合化・集約化(https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/1387273.htm)

テーマ 新しい図書館を考えよう!

実施概要	実施回	開催日	場所	参加者数	応募総数
	第1回	令和7年10月26日(日)	横浜市役所	31人	142名
	第2回	令和7年10月29日(水)	横浜市役所	37人	

▼ 主な意見 新しい図書館にほしい「新しい機能」として、以下の意見が得られました。

● 知的好奇心を呼び起こす仕掛け

本の貸出しを活発化させる仕掛け

貸出履歴を記録して匿名でシェア、本の交換会を実施などで、新しい本との出会いのきっかけを作る。

AIを活用したリコメンド機能

関心分野への理解の促進に加え、関心分野に近い他分野との出会いも生まれる。ほかにも専用アプリで年齢別・世代別のおすすめの本や司書のおすすめが提案されるなど。

作家との連携

作家を招待し、直接交流できる。

地元企業・地元スポーツチームとの連携

地元企業や地元スポーツチームについて知ってもらうスペースの設置や、コラボレーションを実施する。

● 利用者が互いに交流できる機会

まちかどサテライトの設置

図書館に、地域に密着した、第三の居場所となれるような空間を提供する。

市民参加型の書棚づくり

市民が自ら本を選び、テーマに沿った「自分たちの本棚」を作ること、市民同士の交流のきっかけを生み出す。

外国につながる方向けのアプローチ

日本語教室や、旅行者や住民それぞれに向けた情報コーナーを設置する。

● ユーザビリティの向上

多様な利用シーンへの対応

「ワーケーション環境の整備」「有料読書スペースの設置」「館内託児所の設置」など、利用者のニーズに合わせた環境を提供する。

● 他施設・企業との連携

知の創造に向けた連携

市内の大学・企業・団体等が保有する知的資源を相互に連携し活用する。

● 偶発的な出会い

VR空間の提供

感覚的な体験から新しい関心分野に出会える場所。もし関心を示した場合は、適した図書を提案する。

● 五感で知に触れる、多様な体験

活動が見えるガラス張り建築

館内での多様な活動を視覚的に感じ取れるよう、ガラス張りの構造とする。

音楽や演劇、展示にふれる空間の整備

コンサートや演劇、展示に触れられる空間を整備する。

フィットネス機能の整備

健康づくりやスポーツにおける課題解決のための実践ができる空間を整備する。

リラックスと自由な配置

畳の空間など、リラックスでき、自由な空間を提供する。

● 知を実践し、発信できる場の提供

図書館資料と連携した体験型教室の開催

例えば料理本で学んだことをクッキング教室を実践できる。

スキルとニーズのマッチング

学びたい人と教えたい人をつなぎ様々な交流イベントの実施サポートなどを図書館が行う。

貸出を行わない「ビジネス支援室」の設置

専門書やデータベース等、図書館でしか得られない情報を充実させ、常時閲覧できる環境を整備する。

まちライブラリーのような仕組み

市民が自分のおすすめの本を持ち寄り、棚を作ることで、交流が生まれ、そこから知的実践や発信に繋がっていく。

● ユーザーの定着

コンシェルジュの配置

何を読めばいいかわからない、なんとなくふらっと立ち寄った、という利用者が「とりあえず話しかける相手」として配置する。

● 「利用していない人、利用できていない人」への想像力

従来の利用者層に留まらないサービス設計

現状で図書館を利用していない、あるいは利用できていない層(例:通信制学生、不登校生徒など)の視点を重視し、サービスを設計する。

▼ 主な意見

現在の図書館のイメージ

- 勉強をしに行ったり、調べものをしに行く場所というイメージ
- 友達と一緒に過ごすイメージは無い。古くて、あまり快適とは言えない。
- レファレンスカウンターは利用したことがない。

現在の図書館の困っているところ

- 自習室が小さい。借りたい本があっても、予約が多すぎて借りられない。
- 静かすぎて居づらい。
- 座席がいつも埋まっており、長く居ることができない。隣の市にできた新しい図書館は席がたくさんあるので親とよく行っている。

図書館の良いところ

- いろんな本が本棚に並んでいるので、「こんな本あるんだ」という発見がある。
- 無料なので、さほど興味が無くても気軽に手に取れる。

行ってみたい図書館について

空間

- 綺麗で、過ごしていて気持ちの良い空間であってほしい。
- 石川県立図書館のような図書館が良い。広い空間にいろいろな席があり、おしゃべりもできる。空間が格好良いと、用事が無くても行く気になる。
- 本を読むところでは暗い照明、勉強するところでは明るい照明など、用途に合わせていろいろな場所があるとよい。
- 様々な内装の空間が、ボックスホテルのように多数並んでいると面白いと思う。
- 防音室(楽器の練習などができる)がほしい。
- 動物がいるスペースや水族館みたいなところで本が読めると楽しいかもしれない。
- 家では家具の隙間や階段の途中、ソファの上など、その時の気分次第でいろいろな場所で本を読んでいる。落ち着く場所や体勢は人それぞれ。図書館でもいろいろなスペースで本を読めるとよい。

交流機能

- アイデアバンクが欲しい(みんなの掲示板的なもの)。アイデアや困りごとを投稿でき、書き込みやイイネなど交流できる仕組みをWeb環境に構築。図書館ではそれを常に大きく投影し、見えるようにしておくとうい。
- 読書感想文を館内のデバイスに打ち込み、ストックできる機能があるとよい。他人の感想文をキャラクターが紹介してくれる仕組みがあると、新しい興味に触れられる。

本の世界の拡張(五感で体験)

- 読書以外の体験を想像すると夢が膨らむ。
- VRで、バーチャル旅行ができたり、本の世界を体験できると面白そう。
- 作品に登場する料理が併設のカフェで食べられると素敵。
- 本に登場する非現実のアイテムや生き物(例えば恐竜など)を実際に感じたり、体験できたりできるとよい。音や大きさは文字では伝わらない情報を、VRでリアルに体感したい。
- 歴史ものの本の世界をバーチャル等で体験できると良い(例えば、資料集が3Dで体験できるなど)。
- 本の世界を仮想現実化することは、好奇心を刺激して良いと思う。
- 同じ文字から想像するものは人それぞれ。3D等で再現したイメージに対する評価は人それぞれだと思うが、その違いを互いに共有するのも面白味がある。

イベント・特色など

- 例えば、自分の家でしか使われていない言葉や、個人的に使っているオノマトペ、家庭のカレーのレシピなど、プライベートな世界を比較・共有するイベントがあったら面白いと思う。そうして集まった知恵を書籍化したら楽しいと思う。
- 学習参考書や勉強用の資料が充実している、ネットが使える、個室の勉強スペースがたくさんあるなど、勉強に役立つ機能がパッケージ化していると良い。
- 関連本紹介機能が欲しい。本の文章の中にあるワードからリンクできるなどできるなど。webと紙の良いところを取り入れる。
- 図書館の守備範囲を拡張させ、水族館や博物館的な機能と“本”をコラボさせると面白い。

図書館ならではの機能

- 図書館で読んだ本をその場で購入できる仕組みがあるとよい。許可を得たうえで、3DプリンターやAIを使えば、技術的にはできるのでは。

▼ 主な意見

今の図書館のイメージ

- 古い、暗い、閉鎖的で入りにくい。

今の図書館の困っているところ

- 座る場所が少なすぎる。いつも常連の人で席が埋まっている。
- 図書館のイベントを知るすべがない。SNSで発信してほしい。
- 本の並びが分かりにくい。
- 新しく入る本が少ない。また、すぐに予約でいっぱいになってしまう。
- 駅から遠くて行きづらい。

図書館の良いところ

- たくさんの本が無料で読めるので、子どもや若者にとって大事。

行ってみたい図書館について

在り方

- 本を読むだけでなく、時間を過ごすことが目的になるとよい。
- 本に興味が無い人も楽しめる施設だと良い。
- 駅前の便利な場所なら、遠くても電車に乗って行けるので、たくさんの人がある。
- 中学生だけで過ごせる居場所(放課後、お金がないと居場所がない)。
- 「友達と遊びに来れる場所」にしてほしい。
- いろんなことがしたいかは人それぞれなので、利用者が自分のインスピレーションの赴くままに何かをし、過ごせる場所になるとよい。

空間

- 海外の図書館のような広く、明るい空間(お洒落なガラス屋根の空間など)。
- スマホで何でも調べられる時代なので、わざわざ足を運ぶに値する、“バズる図書館“になるには見た目も大事。
- 階毎に異なる雰囲気を演出すると良い(例えば、レトロ、中世、近未来など)
- プロジェクションマッピングなど、夜間の演出にこだわってほしい。

併設機能(理由)

- 公園(遊んだついでに本が読める/窓から緑が見えると気持ちが良い)。
- 本屋(気になった本をすぐに購入できる)。
- ボウリング場や運動施設など体を動かせる場所(本を読んでじっとしていると運動したくなる/図書館に来たことのない人達にも来やすいように)。
- カフェ・飲食店(食事ができるのは必須)。

読書環境

- ソファ、緑、寝転がれる場所、テラス席、自然光の入る席など、落ち着く環境が欲しい。
- 静かなスペースと話してよいスペースと、両方あるとよい。
- 紙のマンガがたくさん置いてあるとよい。
- ビーズクッションや、ベッド、マッサージチェアなど、寝転がりながら本が読みたい。
- 隠れ家的なスペース。
- 「聴く読書」サービスのような、本を読んでもくれる機能があるとよい。リラックスした空間で、落ち着いて聴きたい。

読書以外の機能

- グループで勉強する場所が欲しい。教え合ったりできるよう小声での会話ができるとよい。
- 紙芝居が好きなので、紙芝居を披露するセットがあるとよい。
- 大スクリーンを備えた部屋があり、自分達で見たい動画を流して楽しみたい。
- VRゴーグルで主人公目線で本の世界に入ると面白い。
- 自分と同じ本を読んだ人が、ほかにどんな本を読んでいるかがわかるととても楽しいと思う。
- 目的の書棚までスマホで案内してくれる館内ガイド機能があるとよい。
- 音楽スタジオがあって、楽器の練習ができるとよい。
- 工作の実践の場。本で見ても、材料をそろえるのが大変で実際に作れない。図書館に材料などが用意されていて、本を見ながら工作まで全部できるとよい。
- 量り売りのお菓子があって無料、または安く買えると、食べながら過ごせる。

▼ 主な意見

行ってみたい図書館について

空間

- 光ったりする装飾(ライトアップ)があるときれいで良い。
- 広くて格好良い場所だとまた行きたいと思う。
- テーマパークや映画に出てくるような本格的に凝っている空間が格好良い。
- シンプルに、大きくてかっこいい図書館。
- 落ち着く感じの場所もいい。少し暗い方が集中できる、静かなところがあるといい。

読書環境

- 日本だけでなく、世界の絵本を読みたい。
- 人気の漫画がたくさんあると、人がたくさん来ると思う。
- 品揃えを良くし、最新刊が常に読めるとよい。
- 友達とおしゃべりができるとよい。
- 囲われている静かな場所で本が読めるとよい。
- 寝転がって良いところが欲しい。
- ピーズクッション、広いソファ、枕、掘りごたつなど、リラックスできる環境がほしい。
- 映画館みたいな椅子に座りたい。

在り方

- 本を読む以外に行ける目的がある場所だと普段本を読まない子も行くと思う。
- 親が仕事をしている間に子どもが一人で遊べるような、大人にとっても子どもにとっても居場所となる図書館がよい。
- 家みたいにリラックスできることと、別世界に来た気分になれること、両方を叶える場所になるとよい。

デジタル活用

- 絵本のシーンなどが投影され、絵本に入ったみたいになれると良い。
- 字が読めない子も楽しめるよう、絵本の世界が体験できるデジタルシアターがあるとよい。
- 自分で描いた絵を壁に大きく映し出せれば、幼稚園児などはすごく楽しいと思う
- スクリーンに海や森の映像を投影して、海の場合は海に関連する本を、森なら自然に関連する本を紹介したらいいと思う。

体験・活動

- 万博のような世界のことが知れるブースが常設されているとよい。
- ゲームができるとよい。また、その横に攻略本やゲームの歴史の本があるとよい。
- 図鑑に載っている生き物に実際に触りたい。
- 運動やお絵描き、工作など、読書に飽きた時にできることがたくさんあるとよい。
- 本に載ってる料理が作れ、食べられると、本を読むのが楽しくなる。
- 料理や工作と一緒にやれば、そこで会った人と友達になれるので素敵。
- 運動できる場所があるとよい。床がスクリーンになっており、本の登場人物と一緒に体を動かせたら楽しい。
- 本に出てくるものを3Dプリンターで作れたら楽しそう。
- ストリートアートのように床や壁などにたくさん絵などが描ける場所があるとよい。
- 茶道教室、英語教室などの習い事がたくさんできるとよい。
- 自分で本が書ける。書き方を教えてくれる人がいて、画をつけてくれたり、手伝ってくれる。

イベント・仕掛け

- 脱出ゲーム(館内各所に質問と本が置いてあり、本に書いてある答えを探して進んでいく)。
- 誕生日や星座などからおすすめの本を紹介してくれると楽しい(自分では選ばないようなおすすめの本が知りたい)。
- クイズ大会や、オセロ・将棋などのボードゲーム大会。
- 本を借りる毎にポイントが付き、グッズなどと交換できるサービスは欲しい。
- 壁などにクイズが書いてあると楽しい。
- 本にオマケをつけてもらえる。
- スポーツ選手のサイン会など。
- いろんなひとの自作の本を置いたコーナー。

有識者ヒアリングの結果

有識者	小泉 公乃 氏	大向 一輝 氏	石井 大一郎 氏	安岡 美佳 氏	菅沼 聖 氏	田村 和彦 氏
分野	学識経験者(図書館情報学)	学識経験者 (デジタル・情報テクノロジー)	学識経験者(コミュニティ政策)	学識経験者(コミュニティ政策)	体験プログラム設計実務経験者	文化施設運営実務経験者
所属等	筑波大学図書館情報メディア系 准教授	東京大学大学院人文社会学系研究科 准教授	宇都宮大学地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科 教授	ロスキレ大学 准教授	山口情報芸術センター(YCAM)	株式会社丹青社

▼ 主な意見

新図書館のあり方

- 公共図書館の使命は「知る権利の保証」であるため、その軸は意識できるとよい。
- 市民の施設となるよう、「横浜市の図書館の課題を解決する図書館」ではなく、「横浜市の課題を解決する図書館」であるべきである。
- 図書館は、地域のcommonsの役割が求められていると考える。
- 大学図書館は新しい研究のために情報提供を行うが、公共図書館は他の図書館とは異なる役割が期待されると考える。

情報社会における図書館の役割

- 誰もが情報サービスを利用できる時代になった一方で、誰もが適切に使いこなせるとは限らない。図書館は情報を扱う組織として、適切な情報サービスとの関わり方ができるとよい。
- AIなどによって情報収集の選択肢が増えている中、図書館には豊富な資料が揃っており、他の利用者がそれぞれの目的に沿って情報を収集している様子を直接目にできるといった、リアルな場ならではの意義があると考えられる。

コミュニティ形成・市民活動支援

- 新図書館で、地域コミュニティの核となる新しい機能を提供するためには、各部署が連携して運営できるようにすることが望ましい。縦割りの運営とならないようにするための工夫が必要である。
- 市民のコミュニティアークイブ(市民自らが地域の情報を記録し残していくこと)を行政が支援するという関わり方ができればよい。
- 市民活動に対して、行政はコーディネーターのような関わり方が望ましい。
- 利用者が能動的に関わっていける場とするためには、いかにモチベーションのある方の活動のハードルを下げ、支えられるかが重要である。
- ステークホルダーと連携し続けていくためには、図書館に思い入れを持ち、継続的に関わってもらえるような関係を構築しておくというのが重要である。
- 潜在的な参加者を増やすことが重要である。北欧の図書館にはおしゃれなカフェが入っていることが多い。カフェをきっかけに来館した方が、本やイベントを目にし、自然と関心を示すような流れが生まれている。

知的な体験の提供

- 図書館で知的な体験を提供する際は、図書館の持つ情報を活かした体験とするなど、図書館で実施する意義があるとよい。
- 知的な交流・体験は受動的なものではなく、市民が能動的に携わる必要がある。
- プロデューサーやプランナーにアイデアを生み出してもらい、コーディネーターから地元の大学や企業、NPOなどに協力を依頼することで、実行できる。そのため、コーディネーターは、地域の人への連絡を厭わず、積極的に人脈を広げていくことが重要である。
- 公共と民間ではベースの考え方が大きく異なることが多い。時間をかけて、問題が生じた都度協議をし、互いの長所を生かし協力ができるとよい。
- 創造的なアーカイブを実現するためには、そのための座組を構築することが望ましい。もし図書館が自ら実施することが難しい場合には、外部の関係者を招き入れられるラボのような空間を設けることが有効である。

施設

- 実際に関業すると、設計段階とは異なった利用方法となることが多い。可能な限り、開館後にも用途を変更できるような可変性を、設計段階から意識できるとよい。
- 例えば、同じフロアに複数の機能を導入することで、普段あまり関心を持たない分野にも自然にアクセスできるような施設のデザインが望ましい。

横浜市の図書館ならではの視点の必要性

- 市民に「自分たちの施設」と認識してもらえよう、どの自治体でも当てはまるような機能ではなく、横浜市の図書館ならではの機能があるとよい。
- 横浜市の図書館であるからこそその意義について明確にするとよい。市に携わる方々が使いやすいものとなるよう、市民などの意見を聞くことが重要である。

実施概要

本基本構想の策定にあたり、令和7年12月に公表した素案の内容について、市民意見募集を実施しました。いただいたご意見は構想策定の参考としたほか、今後の事業や取組の参考にさせていただきます。なお、いただいたご意見は本基本構想のホームページに記載しています。

1.実施期間

令和7年12月17日(水)～令和8年1月19日(月)

2.意見提出方法

- 横浜市電子申請・届出システム
- 電子メール
- 郵送
- FAX

3.周知方法

① 素案(概要版)の配布

市立図書館、区役所、市民情報センター

② 広報手段

記者発表、広報よこはま(令和7年12月号)、横浜市教育委員会事務局ホームページ、家庭と学校の連絡システム「すぐーる」、教育委員会公式X、市LINE 等

結果概要

意見提出状況として、681通のご意見が寄せられました。

(単位:通)

年代 提出方法	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	計
計	1	23	7	106	273	127	41	12	91	681

結果概要

● ご意見数

意見主旨	件数	割合
基本構想素案への賛成意見	35	3.5%
新図書館整備を推進したうえで、新図書館の具体的な機能への提案・期待等	611	60.5%
図書館施策全般や地域図書館等他の取組への意見	293	29.0%
新図書館整備より、他の図書館施策を優先すべきという意見	27	2.7%
基本構想素案の内容(立地、コンセプト、機能等)の見直しに関する意見	35	3.5%
財政的視点等からの見直しに関する意見	9	0.9%
合計①	1,010	100%
その他、図書館施策以外への意見	80	
合計②	1,090	

※ ご意見の内容を踏まえ、分割して集計しています

● ご意見への対応

対応分類	意見主旨	件数	割合
賛同	基本構想素案への応援・期待として受付	35	3.5%
修正	意見の主旨を踏まえ、基本構想原案に反映	165	16.3%
参考①	意見の主旨を、今後の新図書館整備基本計画検討等に活用させていただくもの	517	51.2%
参考②	他の図書館施策推進の参考にさせていただくもの	293	29.0%
合計①		1,010	100%
その他	所管部署等へ情報提供させていただくもの等	80	
合計②		1,090	

● 新図書館整備に関する 主なご意見の例

- 他都市にあるような多機能型の新図書館への期待
- 新図書館が保有する蔵書や閲覧席数などについての要望
- 空間の開放性や、座席・家具など、新図書館の施設・設備への要望
- お喋りの許容、カフェの設置など、過ごしやすさへの期待
- デジタル技術を使った新しいサービス提供への要望
- 新図書館の機能・価値を向上させるために、図書館以外の機能との複合化の提案
- 新図書館整備と連携する、新横浜のまちづくりに関する期待
- デジタル化の進展などによる読書ニーズの変化と大型図書館整備の必要性
- 地域図書館や図書取次所・返却ポスト等他の図書サービス充実の要望
- 新図書館整備と財政ビジョン(ファシリティマネジメントなど)との整合、維持管理費への懸念

など

実施概要	実施回	開催日	場所	参加者数
	第1回	令和8年2月21日(土)	横浜市役所	47人
	第2回	令和8年2月24日(火)	横浜市役所	45人

▼ 主な意見

● 新図書館の方向性について

- 新図書館には、図書館としての基本機能と、新しい機能があるが、後者に寄り過ぎず、バランスを意識してもらいたい。
- 新横浜は新幹線駅であり、横浜の玄関口ともいべき場所である。多くの方に横浜の魅力を発信する機能が必要である。
- 横浜らしい図書館になるとよい。例えば、異文化や緑を大切にすると横浜らしさとなる。
- 本に触れる機会の確保という点で、地域図書館や学校図書館が重要であり、新図書館が各施設の活動を支援する立場になるべき。
- ネーミングが重要である。図書館だと、昔ながらの静粛な空間を想起してしまう。

● 利便性・アクセスについて

- 新横浜は気軽に行ける場所ではないと感じる。地域館はより身近な憩いの場とし、新図書館は本好きや共創の場となるような役割分担が必要と考える。
- 「人が集い、体験する施設」であれば、駅から近いというのは魅力である。
- 新幹線を待つ人や周辺のアリーナ利用者なども来館されることが予想され、人流が課題となる。例えば、事前予約性とするなどの対応が必要と考える。

● バリアフリー・インクルージョンについて

- 外国人、障がい者の方への対応を今から考えていくべきである。
- バリアフリー機能の視点が平時と災害時の双方で必要となる。

● 蔵書・資料・メディアの充実について

- 市の文化資料・郷土資料を蓄積できる機能があるとよい。新図書館は、そのような資料を蓄積する拠点になる必要がある。
- 蔵書数、メディアの種類といった、「量」だけでなく、「どのような情報を集めるか」という「質」の観点も重要である。
- 世の中がデジタル化し、電子書籍をはじめ、利用者のニーズが少しずつ変わってきており、対応していく必要がある。

● 施設・設備について

- 設計にあたっては意匠性にも期待しているが、市民も参画できるような仕組みを取り入れてほしい。
- 気軽に行ける市民に開かれた図書館が大事だと考えるが、一方でセキュリティ面の検討も重要。
- 新図書館には駐車場などを設置すると、子ども連れも利用しやすくなると考える。

● 運営・市民参加について

- 市民が継続的に図書館の運営に関わる仕組みがないと感じた。計画段階だけでなく、開館後も市民の意見を聞く場や関わる場があることが望ましい。
- 運営においては、地域の専門家(絵本専門士、読書アドバイザーなど)と連携し、司書だけでなく、市民の力も活用できるとよい。

● 物流ネットワークについて

- 現状不十分である市立図書館と学校図書館との連携が強化されるとよい。

● 学習・活動・居場所機能について

- 図書館に行ったことがない子どももいる。子どもが本に触れるきっかけとなるよう、例えば、遺足の受け入れや手作り絵本コンクールなどが実施できるとよい。
- 子どもが学校では聞きにくいことを気軽に質問できるような、チャットレファレンス等のデジタルサービスが充実すると、広く活用してもらえると考える。
- 座席は、子どもが広々と使える席、大人が落ち着いて読書できる席など、双方が使いやすいルール・規模があるとよい。

● 財政等 市全体の方針

- 多機能であるのは素晴らしいが、その反面、今後の予算や人口減少のことが心配である。図書館で本当に大切なものは何か考えるべきである。
- 持続可能性も重要な視点であり、財政的な観点を考慮すべきである。多少収益が得られる部分も必要ではないか。
- 大きな公共施設は疑問。福祉など、他の政策に予算を使うべきである。

団体

団体名称	活動内容
新横浜町内会・新横浜自治会・アデニウム新横浜自治会	自治会・町内会活動
関内インノベーションイニシアティブ株式会社	mass×mass 関内フューチャーセンターの運営、社会起業家の育成や地域活性化支援を実施している。
NPO法人 街カフェ大倉山ミエル	街カフェ「大倉山ミエル」の運営のほか、地域のコミュニティづくりに関する事業を展開している。

▼ 主な意見

新図書館のあり方

- 図書館に求められる価値は時代と共に変化するため、ソフト・ハードともに、時代の変化に対応して変化できる施設とするのが望ましい。
- 新図書館は、コモンズ*として運営できるとよい。コモンズとして運営するには、利用者が「参加した」という実感を得られるプロセスを用意することが重要である。
- “地域”に対するアプローチは、各地域図書館で行い、新図書館は、各地域図書館のハブとなるとともに、必ずしも地域に依らないつながりを作るべきである。

活動団体との連携

- 一般論として、それぞれ別の活動を行っている団体同士が連携することは簡単なことではない。連携をサポートするコーディネーターを新図書館に配置できるとよい。
- コーディネーターの中に、継続的に関与できる活動団体のメンバーなどが入ると、厚みが出る。
- ソフトだけでなく、自然に連携が進むようなハード的な設え(互いの活動が見えるなど)も大事である。

市民協働・共創の場づくり

- 地元では関係性が近すぎるため、市民活動・地域活動に参加しづらいと感じる人もいる。図書館は間口の広い施設であり、その中に市民活動・地域活動に気軽に参加できるようなアクセスポイントがあるとよい。
- 図書館に、誰かが活動している様子を見たり、誰かと出会えたりするような場があるとよい。
- 新図書館が実現したいビジョンやキーワードをきちんと表現し、そのためのステップも示した方がよい。

連携拠点としてのあり方

- 利用者呼び込むにあたっては、どのような層に、どのような切り口でサービスを提供するかを設定する必要がある。一つのテーマに特化することも、複数のテーマを内包させることも考えられる。
- 図書館として、より間口を広げていくのか、より尖ったニーズに応じていくのか、テーマ設定を明確にしておく必要がある。
- 連携拠点としての取組テーマの一つとして、「様々なバックグラウンドを持つ子どもたちの居場所づくり」も考えられる。

企業との連携可能性

- 連携拠点としてのテーマにもよるが、図書館やそこで活動する団体との連携に関心を持つ企業もいるはず。
- 連携拠点として、活動団体・利用者与企业とをマッチングさせるためのルールづくりやコーディネーターの役割などは、予め検討しておく必要がある。

防災機能

- 災害時の帰宅困難者への対応や防災備蓄など、まち全体の防災機能の強化に資する取組が盛り込まれるとよい。

まちづくりとの連携

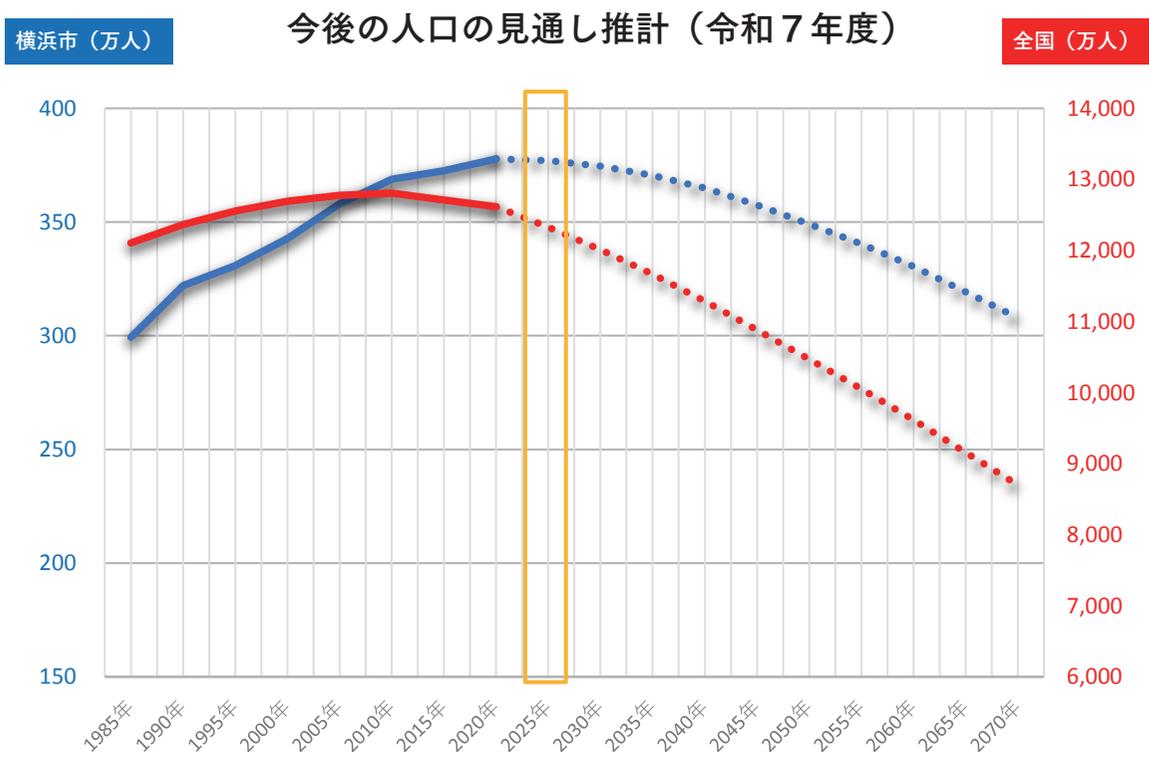
- 駅からのアクセスや、図書館の賑わいを街へ広げる工夫など、建物の中だけでなくエリア全体の視点を持って取り組んでいくことが大事である。
- 図書館単体ではなく、民間施設や他の公共施設等と複合化するなど、図書館のみならず、まち全体の魅力を高める施設になるとよい。

*英語で「共有地」「入会地(いりあいち)」を指し、特定のコミュニティが共同で管理・利用する資源を意味する。図書館では、近年、誰もが利用できる対話・交流の空間として、“コモンズ”が設置される例がある。

将来的な人口減少・少子高齢化

- 今後、全国と比べて緩やかであるものの、人口減少局面を迎える
- 現在は約377万人であるが、2070(令和52)年には、約308万人まで減少見込み(約18%減少)

今後、市税収入が
減少する見込み



1985～2020年は、国勢調査
2025年以降は、横浜市は「今後の人口等の見直し推計 (令和7年度)」、
全国は「日本の将来推計人口 (令和5年度)」

【出典】今後の人口等の見直し推計 (令和7年度)

1. 今後の財政状況の見通し

- 歳入面: 市税収入の減少等
- 歳出面: 社会保障経費の増加等



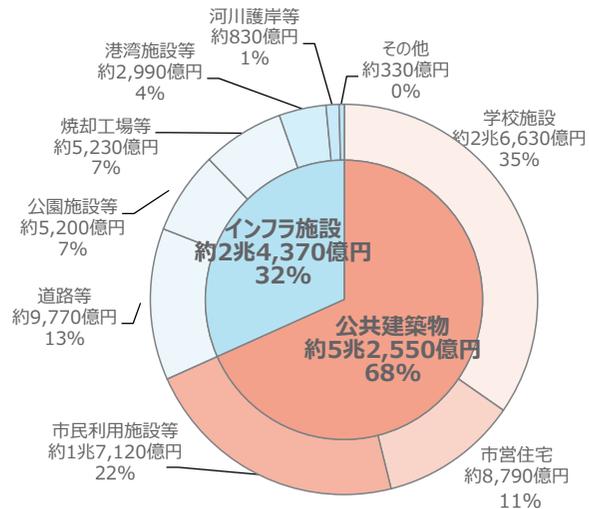
公共施設に係る課題

- 市内の公共施設の老朽化が進行し、保全更新コストが増大

公共施設の保全更新コストの長期推計

総額：約7兆6,920億円

(一般会計における2021年～2065年の見込額)



【出典】財政ビジョン(令和4年6月)掲載データ

2. 財政ビジョンの目的(目指すべき姿)

- 「施策の推進と財政の健全性の維持」の両立

3. 財政ビジョンの構成

財政運営の基本方針

債務管理

財源確保

資産経営

...

公共施設が提供する機能・サービスの持続的な維持向上に向けた取組

1 | 保全・運営の最適化

長寿命化、運営の改善、新たな運営手法の検討等

2 | 施設規模の効率化

再編整備による規模効率化、公民連携手法の検討等

3 | 財源の創出

資産の売却・貸付等による財源創出、国費の活用等

規模効率化に係る目標

公共建築物の総床面積の縮減(2021年時点:約862万㎡)

2040年:2021年時点より増やさない 2065年:2021年から少なくとも1割を縮減

横浜市新図書館整備基本構想 (令和8年3月)

横浜市教育委員会事務局 教育政策推進課
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10

電話 045-671-3243 FAX 045-663-3118